

# 海外研修報告

スペイン（バルセロナ）～フランス（パリ）

2025年1月12日～2025年1月18日

2025年3月5日

サンキャスト株式会社



# ○INDEX

P03 目的

P04 目標

P05 課題

P07 進め方

P08 STEP1 事前準備

P12 STEP2 フィールドワーク（優先順位 1、2→対象物件の決定）

P21 フィールドワーク後、対象物件のリサーチ（ガウディとカサ・バトリヨ）

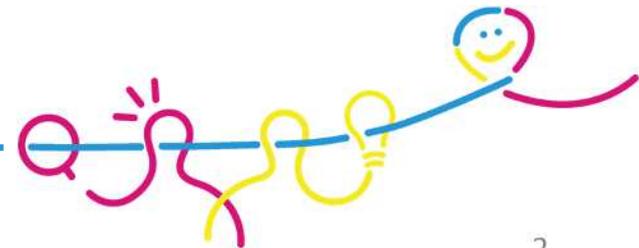
P65 STEP3 （対象物件の）要件整理

P68 STEP4 コンセプトメイク（結果（建築、店舗）からコンセプトを想像する→コンセプトを言語化する）

P70 STEP5 デザイン提案

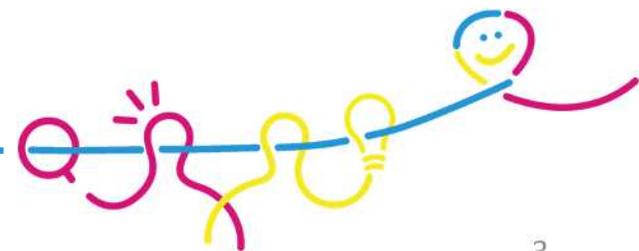
P72 まとめ

P74 フィールドワーク（優先順位 3～）



## ○目的

コンセプトメイク力、デザイン提案力の向上



## ○目標

“コンセプトメイク力”を要素ごとに分解・理解した上で、  
”対象物件”でコンセプトメイクとデザイン提案を実践する

### ○コンセプトメイク力の要素

#### 1. アイデア発想

独自の視点や発想を持つこと。

トレンドやニーズを把握し、それに基づいて新しいアイデアを生み出す。

#### 2. リサーチ能力

市場や競合の分析を行い、情報を集める。

ターゲットオーディエンスの理解を深める。

#### 3. ストーリーテリング

コンセプトを魅力的に伝えるための物語を作る。

感情に訴える要素を取り入れる。

#### 4. ビジュアル化

アイデアを視覚的に表現するスキル。

グラフィックやプロトタイプを用いて、コンセプトを具体化する。

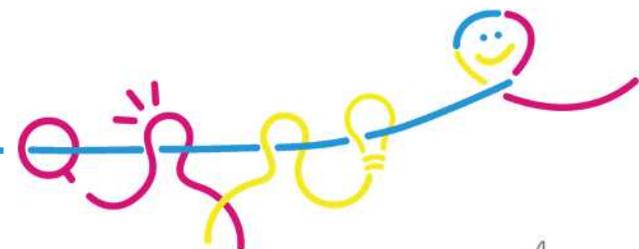
#### 5. フィードバックと改善

他者からの意見を受け入れ、コンセプトを改良する姿勢。

試行錯誤を重ねることで、より洗練されたアイデアを育てる。

### ○対象物件

カサ・バトリヨ（バルセロナ）／アントニ・ガウディ



## ○課題

### 結果（実際の建築、店舗）からコンセプトを想像し、デザイン提案する

“結果”の研究 → 要件整理からやり直す → デザインコンセプト → デザインアウトプット

#### ○リサーチ実施の要点と方法

##### 1.リサーチの重要性

###### 文脈理解:

建物や空間が存在する文化的、歴史的、社会的背景を理解することで、より意味のあるコンセプトを作成できる

###### トレンド分析:

現在の建築トレンドや技術革新を把握し、未来のニーズに応えるアイデアを生み出す

##### 2.リサーチ手法

###### 文献調査:

- ・建築関連の書籍や論文を読むことで、理論的な基礎を築く
- ・過去の事例研究を通じて成功の要因や失敗の教訓を学ぶ

###### フィールドワーク:

- ・実際の建物や空間を訪れ、観察を行う
- ・利用者の行動や反応を観察し、実際の使用状況を理解する

###### インタビュー:

- ・建築家やデザイナー、利用者へのインタビューを通じて、さまざまな視点を収集する
- ・彼らの経験やニーズを直接聞くことで、より具体的なアイデアを得る



### 3.コンセプトメイクへの応用

#### インスピレーションの獲得:

- ・リサーチから得た情報を基に、新しいアイデアを発展させる
- ・異なる文化やスタイルからインスピレーションを受ける

#### プロトタイピング:

- ・リサーチの結果を元に、コンセプトを具体化するためのスケッチやモデルを作成する
- ・素早く試作し、フィードバックを得ることで改善を図る

#### ストーリーの構築:

- ・リサーチで得た情報をもとに、建物や空間のストーリーを作る
- ・利用者の体験を中心に据えたコンセプトを形成する

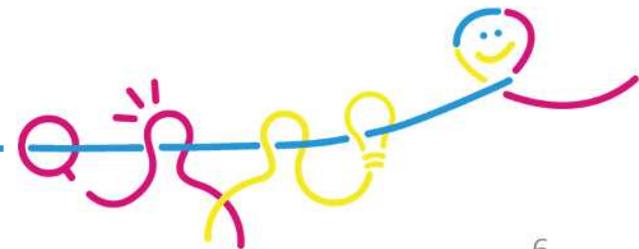
### 4.ケーススタディ

#### 成功事例:

特定のプロジェクトや建築家のアプローチを分析し、そのリサーチ方法とコンセプトの関係を探る

#### 失敗事例:

失敗したプロジェクトを研究し、リサーチ不足がどのように影響したかを考察する



## ○進め方

### STEP1 事前準備

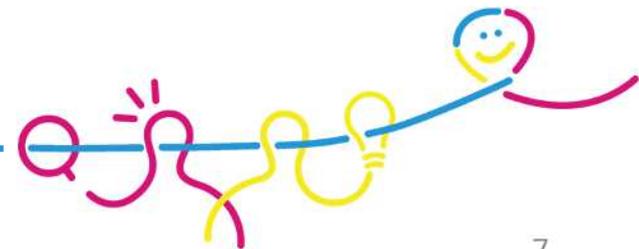
- ・対象の建築、店舗の選定（済み）→絞り込み&旅程表作成（～12/20（金））
- ・事前リサーチ（～01/07（火））文脈理解&文献調査

STEP2 フィールドワーク（1/12（日）～1/17（金））→”結果”のリサーチ、対象物件の決定

STEP3 要件整理

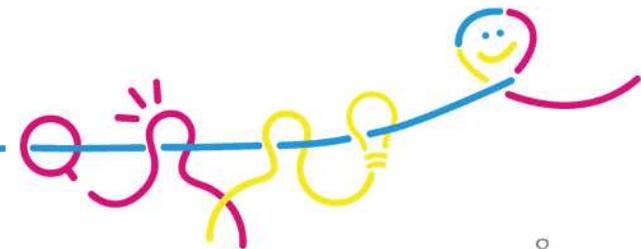
STEP4 コンセプトメイク

STEP5 デザイン提案



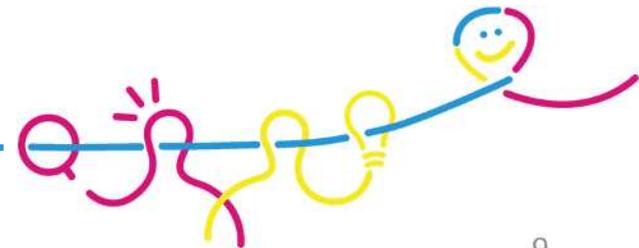
## STEP1 事前準備

- 対象候補の建築、店舗の選定→絞り込み&旅程表作成
  - 事前調査 文脈理解&文献調査



## ○リサーチ対象と優先順位の整理

1. ガウディ
2. ガウディ関連（様式、影響を受けた建築家）
3. 日本人建築家（プリツカー賞受賞者（磯崎新 以外））
4. 美術館、歴史的建造物
5. デパート、ショップ



## ○スケジュール

### 東京～バルセロナ（フライト18時間10分）

2025/01/12(日) 01:00 東京 出発

2025/01/12(日) 07:55 パリ 到着

乗換1.5時間

2025/01/12(日) 09:25 パリ 出発

2025/01/12(日) 11:10 バルセロナ 到着

### バルセロナ～パリ（フライト2時間）

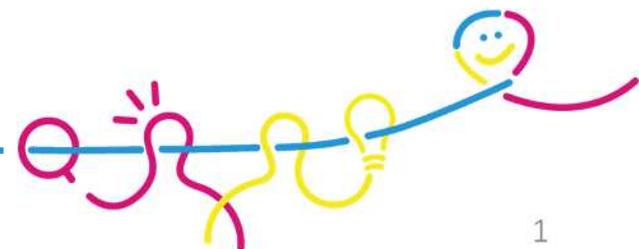
2025/01/15(水) 09:50 バルセロナ 出発

2025/01/15(水) 11:50 パリ 到着

### パリ～東京（フライト13時間39分）

2025/01/17(金) 21:55 パリ 出発

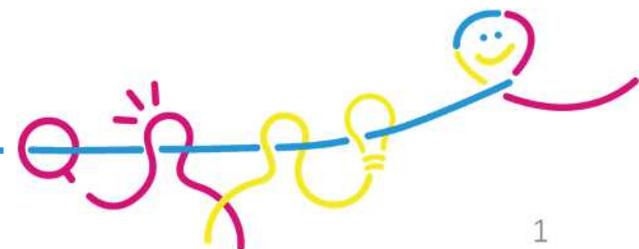
2025/01/18(土) 19:25 東京 到着



## ○事前リサーチ

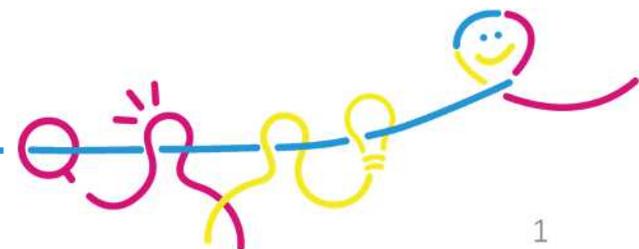
1. フランク・ロイド・ライト～建築は自然への捧げ物～ 大久保美春 著
2. 建築をめざして ル・コルビュジェ 著 吉阪隆正 訳
3. ミース・ファン・デル・ローエ真理を求めて 高山正寛 著
4. Frank Gehry フランク・ゲーリー 建築の話をしよう バーバラ・アイゼンバーグ 著
5. もっと知りたいバウハウス 杉田佳穂 著
6. ガウディの伝言 外尾悦郎 著

上記書籍を基に実施した社内勉強会内容の振り返りと、webによる情報収集を行い、リサーチ対象の理解を深めた



## STEP2 フィールドワーク

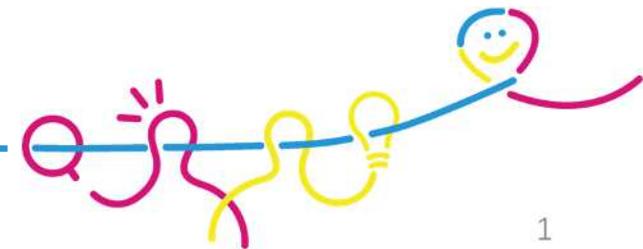
優先順位 1、2



# ○フィールドワーク

## 1. ガウディ

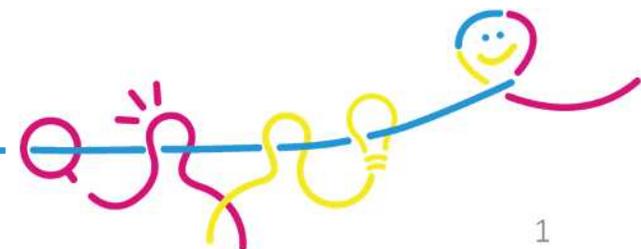
### グエル邸 (バルセロナ)



# ○フィールドワーク

## 1. ガウディ

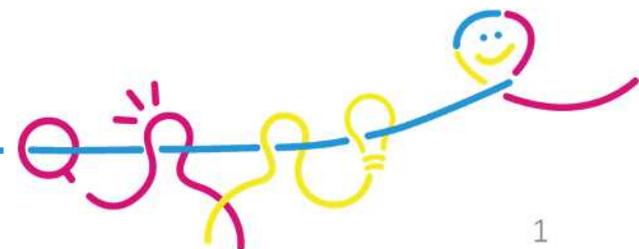
### グエル公園 (バルセロナ)



# ○フィールドワーク

## 1. ガウディ

### カサ・ミラ (バルセロナ)

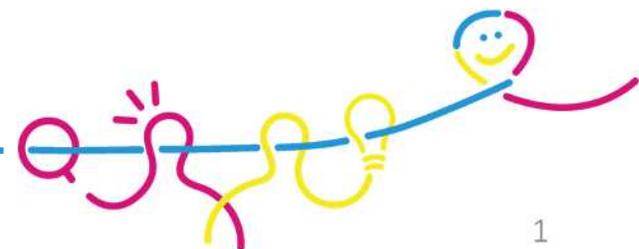


# ○フィールドワーク

## 1. ガウディ

カサ・バトリヨ（バルセロナ）

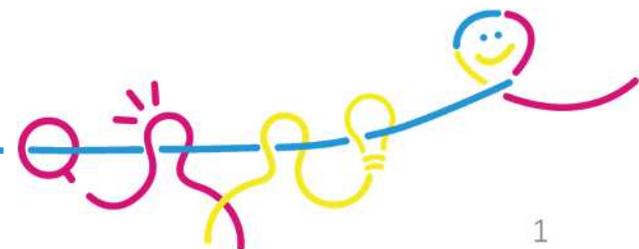
対象物件



# ○フィールドワーク

## 1. ガウディ

サグラダ・ファミリア (バルセロナ)



## ○フィールドワーク

### 2. ガウディ関連（同じ時代に活躍した建築家）

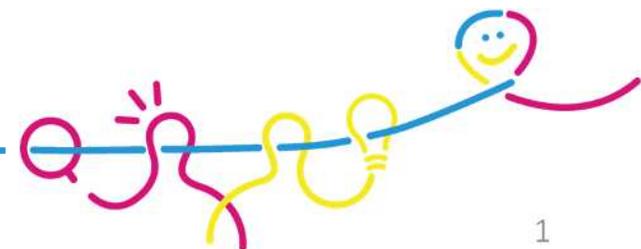
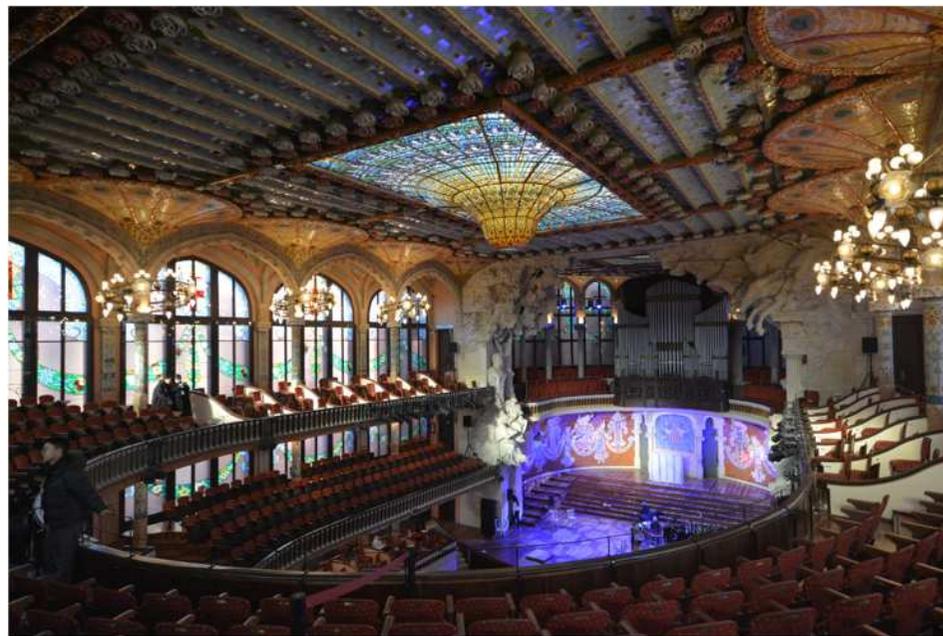
サン・パウ病院（バルセロナ）／モンタネール



## ○フィールドワーク

### 2. ガウディ関連（同じ時代に活躍した建築家）

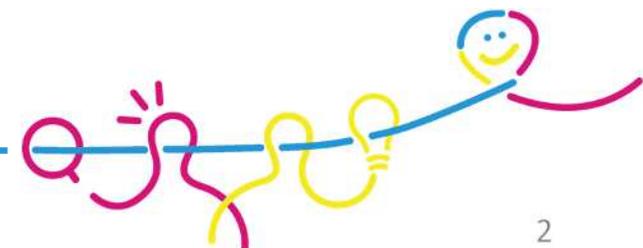
カタルーニャ音楽堂（バルセロナ）／モンタネール



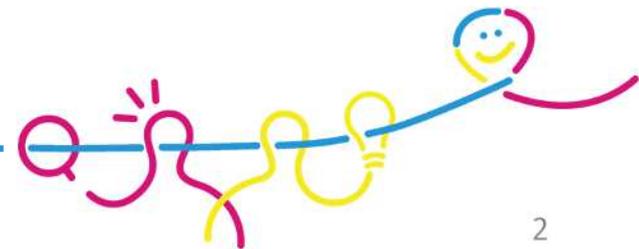
# ○フィールドワーク

## 2. ガウディ関連（同じ時代に活躍した建築家）

カサ・アマトリェール（バルセロナ）／カダファルク



フィールドワーク後、対象物件のリサーチ  
(ガウディとカサ・バトリヨ)



# CASA • BATLLO

SPAIN BARCELONA





## C O N T E N T S

1. アントニ・ガウディ
2. カサ・バトリョ
3. 全体構成とプラン
4. デイテール
5. 実際の建築を見て

01

アントニ・ガウディ

ガウディの建築思想

# 01 アントニ・ガウディ

1852年6月25日-1926年6月10日

スペイン、カタルーニャ出身の建築家

幼少期は自然に強い関心を抱き、周囲の風景や動植物を観察するのが好きだった。

生涯独身。

晩年、サクラダファミリアの建設に集中している中、ミサに向かう途中で路面電車で轢かれ、亡くなった。

## ■ガウディの人柄

・信仰心の深さ：

熱心なカトリック教徒

・慎ましい生活：

晩年は質素な生活を送り、全てのエネルギーを建築に注いだ。

服装にも無頓着で、交通事故にあった際は質素な身なりから一時的に身元不明者とされていた。

・自然への愛：

自然を「神の芸術」として深く尊敬し、建築デザインに自然界の形状や構造を取り入れた。

自然の中で過ごす時間を好み、観察を通じてインスピレーションを得ていた。

・職人氣質：

建築だけでなく、細部のデザインや装飾に至るまで自ら設計し、職人たちと密接に協力していた。

完璧主義で、現場では細かい指示を出しながら建築を仕上げた。

・ユーモアと温厚さ

温厚でユーモアのセンスもあったと伝えられている。特に職人たちと関係は良好で、彼らからの信頼も厚かった。

## ■ 建築思想

アントニ・ガウディの建築思想は、彼の深い自然観、宗教的信仰、技術革新、そして芸術的探究心に基づいています。単なる機能的空間ではなく、自然や神聖さを表現する「総合芸術」として位置づけられる。

### 1. 自然からのインスピレーション

#### ・ 自然界の法則に学ぶ

ガウディは自然を「神の創造した最高の芸術」と捉え、その形状や仕組みを建築に応用した。

曲線や有機的なデザインを多用し、自然界の調和と美を建築に表現した。

例：サグラダ・ファミリアの内部柱、木の幹や枝のように分岐し、森の中を連想させる。

#### ・ 生物的な構造とデザインの融合

自然界の効率的な形態（蜂の巣、植物の茎、骨格など）を参考にし、建築の機能性と美しさを両立

### 2. 宗教的信念と象徴性

#### ・ 信仰と建築

ガウディの作品には、深いカトリックの信仰が反映されている。建築を「神への奉仕」として捉え

、特にサグラダ・ファミリアのはファサードは、新約聖書の場面を彫刻で描写している。

#### ・ 象徴性

建築の形状、装飾、色彩には深い象徴が込められている。

例：サグラダ・ファミリアの塔は天に向かう祈りを象徴。

### 3. 技術革新と伝統の融合

#### ・ 構造設計の革新

ガウディは力学や幾何学を駆使し、当時としては斬新な構造を実現した。

逆さ吊り模型を使った構造計算はその代表例。

例；カテナリーアーチ（吊り鎖曲線）を採用し、建築物の安定性を高めた。

#### ・ トレンカディス技法

破砕タイルを再利用する独自の装飾技法を開発し、色彩豊かな表現を可能にした。

再利用素材を使うことで、持続可能性を実現。

例；グエル公園のカラフルなベンチ

## ■ 建築思想

アントニ・ガウディの建築思想は、彼の深い自然観、宗教的信仰、技術革新、そして芸術的探究心に基づいています。単なる機能的空間ではなく、自然や神聖さを表現する「総合芸術」として位置づけられる。

### 4. 地位文化の尊重

- ・カタルーニャ版モダニズム

ガウディは地域の文化や伝統を尊重し、地域の素材を建築に取り入れ、カタルーニャのアイデンティティを強調した。

例；カサ・パトリヨの屋根は、カタルーニャの伝説に登場する竜をモチーフにしている。

- ・地域社会への貢献

地域住民が利用できる公共空間の設計にも取り組み、建築を通じて地域社会に貢献した。

### 5. 建築の総合芸術

- ・全体性の追求

建築の外観、内装、家具、照明に至るまで、全てを一貫したデザインで統一した。

例：カサ・パトリヨでは、建物内の家具屋手すりまでガウディが設計した。

- ・職人との協働

鉄細工や木工などの職人と密接に協力し、建築を総合芸術として完成させた。

### 6. 建築を「生きたもの」とする哲学

- ・動きと生命感

ガウディの建築には、静止した建物ではなく、生きているような躍動感が感じられる。

例；カサ・ミラの波打つ外壁は、海の波を思わせるデザイン

- ・環境との調和

建築と周囲の環境が調和するよう配慮されており、自然との一体感を重視した。

- ・自然光の取り入れ

ステンドグラスや窓の配置を工夫し、建物内部に自然光を効果的に取り込むことで、空間に神聖さと

暖かさをもたらした。

02

カサ・バトリョ

## 02 カサ・パトリヨ

### ■建物について

増築前の建物は、ごく普通の5階建ての建物。

1877年、アントニ・ガウディが学んだ大学の建築学教授であったエミリオ・サラ・コルテスがカサ・パトリヨのオリジナルの建物を設計し、ルイス・サーレス・サンチェによって建てられた。

1903年、繊維業でいくつかの工場を所有していた起業家ジョゼップ・パトリヨ・イ・カサノバスはこの建物を購入した。

1904年、この家が自分に何のポジティブな感情をもたらさず、モダニズム様式で建てられた隣のアマトリェルの家と比べて見劣りすることに気づいた。歴史に名を残すという目標を掲げ、1904年、建築家アントニ・ガウディに家の再建を依頼した。

パトリヨは、ガウディに完全な創造の自由を与え、新しい家の全ての段階を彼に任せて、建物を取り壊して新しい絵を建てたいと考えていた。しかし、ガウディは家の取り壊しを拒否し、全面的な改築工事で進められた。

その後、1905年-1906年の2年間で改築工事を完了させた。

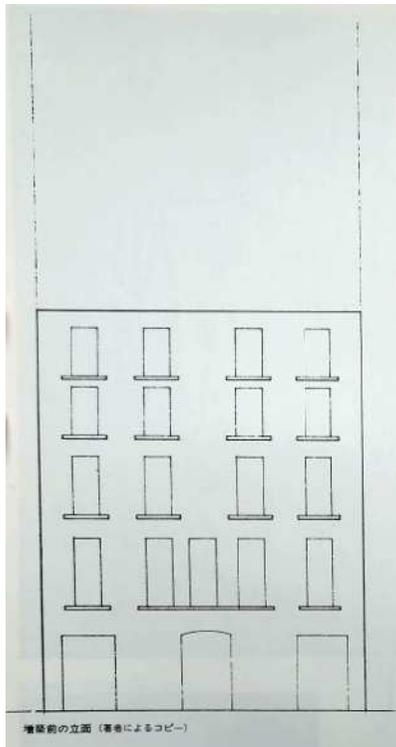
向かって左隣にある建物は、当時ガウディのライバルと言われたモンタネールの弟子が設計したプーチ・カダファルクが手掛けた「カサ・アマトリェー」があります。



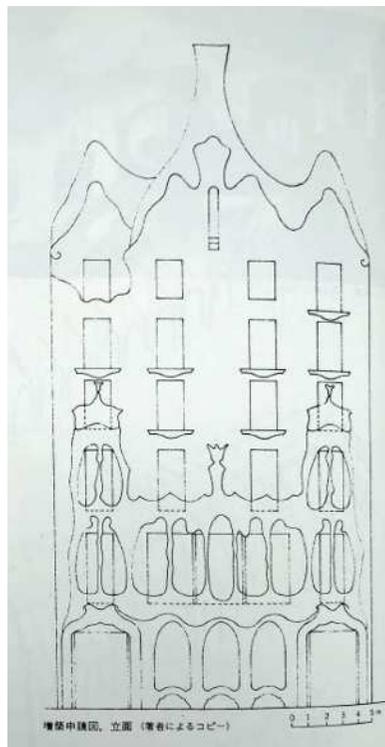
カサ・アマトリュー ↑      ↑ カサ・パトリヨ

## ■ 増築前・増築後 立面図

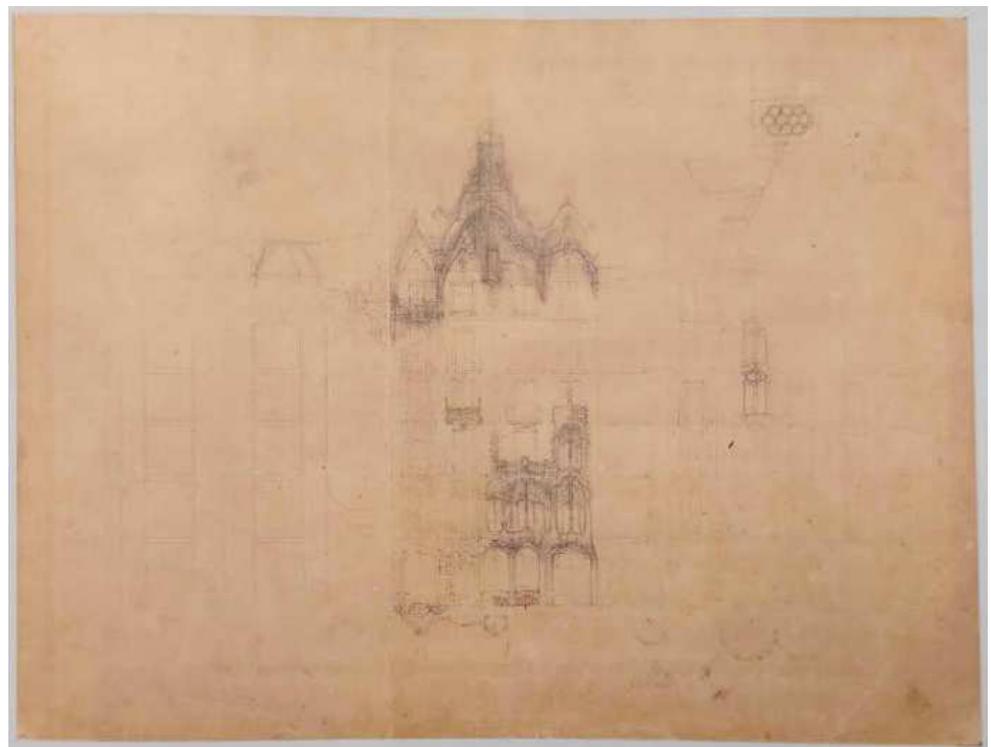
▼ 増築前の立面図



▼ 建築申請図の立面図

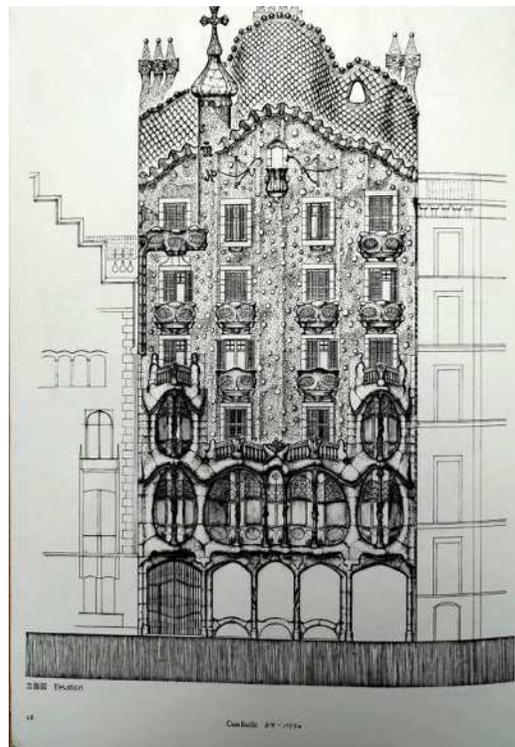


▼ ガウディのデッサン 立面



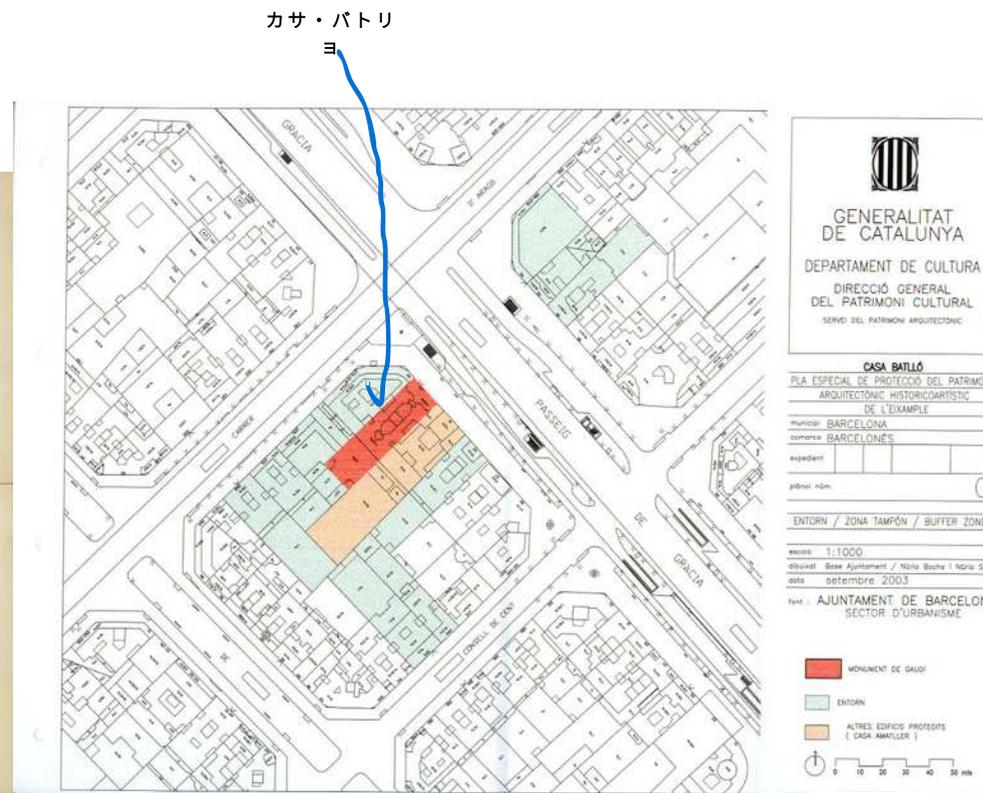
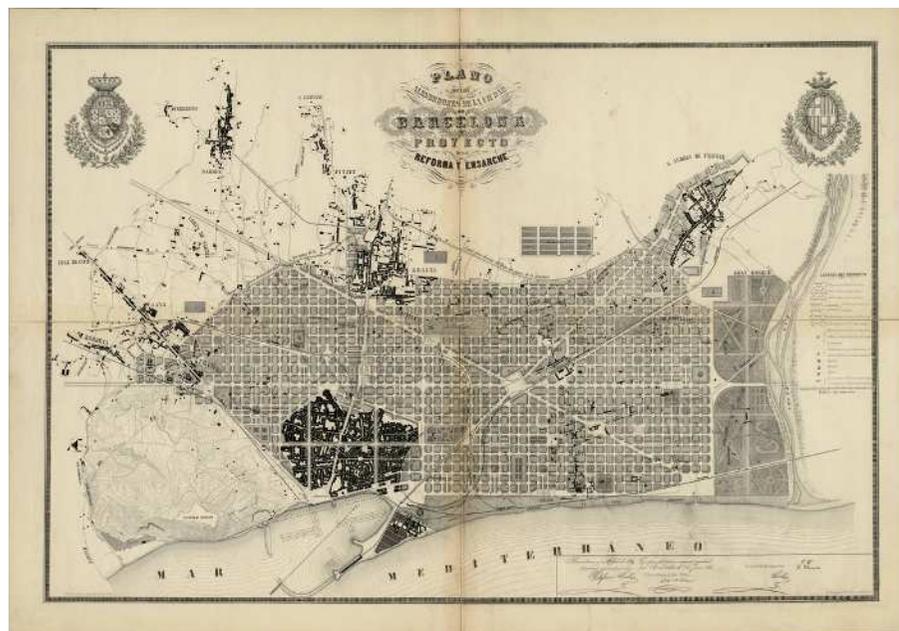
■ 増築前・増築後 立面図

▼ 増築後の立面図



## ■ 敷地

カサ・バトリヨは、スペイン バルセロナのグラシア通りにあります。  
グラシア通りは、バルセロナ市の中心地となり、市内の最も著名な一族は、野心的な都市開発計画の承認を受けて邸宅の建設を進めていました。



GENERALITAT DE CATALUNYA  
DEPARTAMENT DE CULTURA  
DIRECCIÓ GENERAL DEL PATRIMONI CULTURAL  
SERVEI DEL PATRIMONI ARQUITECTÒNIC

CASA BATLLÓ  
PLA ESPECIAL DE PROTECCIÓ DEL PATRIMONI ARQUITECTÒNIC HISTORICARTÍSTIC DE L'EXEMPLE

Municipi: BARCELONA  
Cobertura: BARCELONÈS

expedient: \_\_\_\_\_  
plànol n.º: \_\_\_\_\_

ENTORN / ZONA TAMPÓN / BUFFER ZONE

escala: 1:1000  
dibuixat: Base Ajuntament / Núria Biech i Núria Sola  
data: setembre 2003

Fuents: AJUNTAMENT DE BARCELONA SECTOR D'URBANISME

MONUMENT DE GAUDI  
ENTORN  
ALTRES EDIFICIS PROTEGITS (CASA AMATLLER)

0 10 20 30 40 50 m

# 03

## 全体構成とプラン

# 03 全体構成とプラン

## ■テーマ

### ～海～

自然界からの影響を強く受けたデザインを採用しています。特に、海をテーマにした要素が随所に見られます。

### ～トレンカディス工法と骨～

外観は、砕かれたタイルを用いたモザイク装飾（トレンカディス）で覆われ、波打つような曲線が特徴的です。バルコニーや窓枠は、骨のような形状をしており、「骨の家」とも称される所以となっています。

### ～自然光の取り入れ～

内部もまた、自然光を巧みに取り入れた設計が施されています。中央の吹き抜け部分は、上部から下部にかけてタイルの色が濃淡を変え、光の入り方を調整しています。また、通気性を考慮した通気口付きの扉など、機能性と美しさを兼ね備えたデザインが随所に見られます。

### ～ドラゴン（竜）～

屋上には、ドラゴンの背中を思わせるうろこ状のタイルで覆われた屋根があり、これはカタルーニャの伝説「サン・ジョルディの竜退治」を象徴しているとも言われています。

## ■ ボリューム

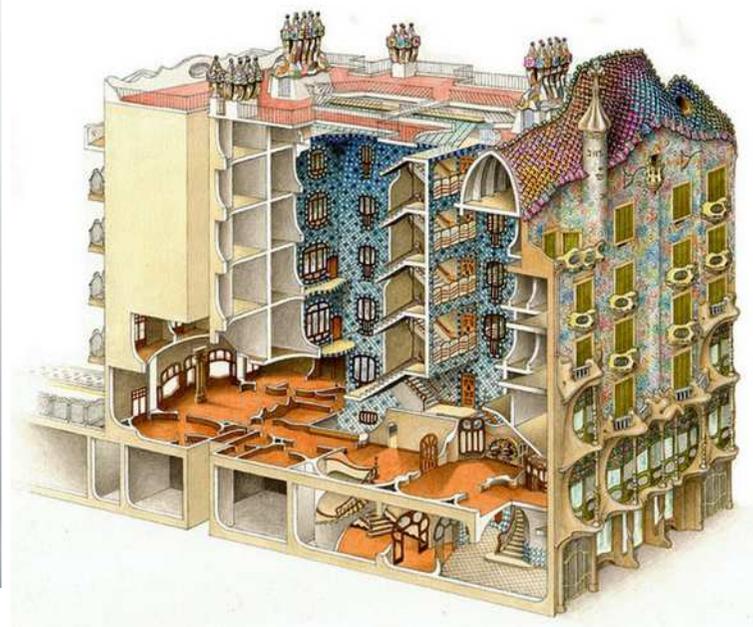
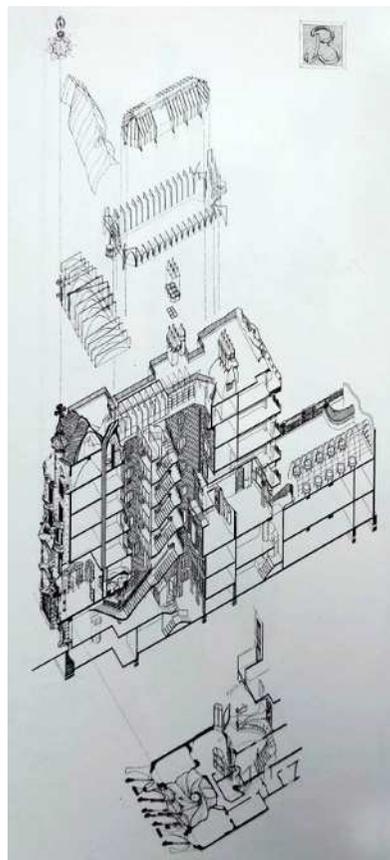
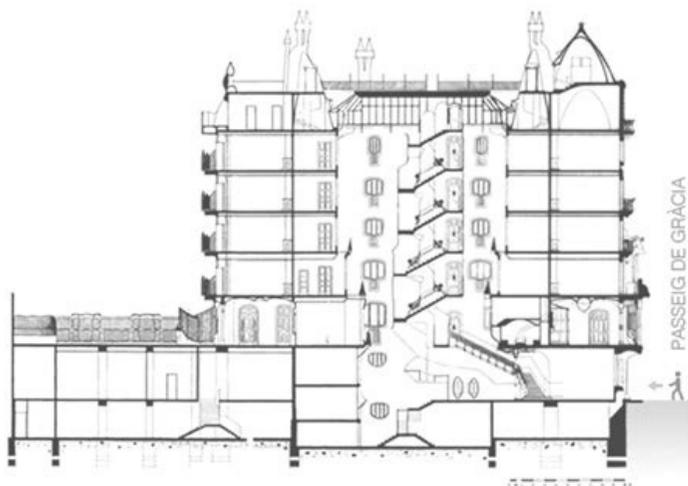
場所：パセオ・デ・グラシア43、バルセロナ

構造：煉瓦造、一部組石造

建物：7階建て、地下1階

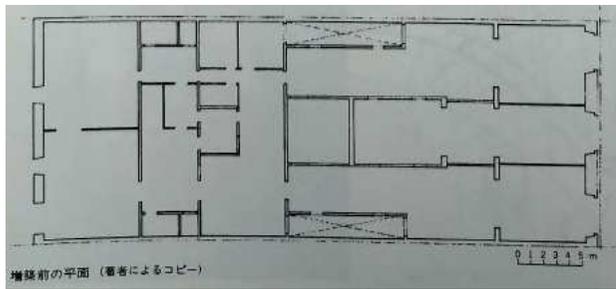
延べ床面積：3168㎡

建築面積：518.4㎡



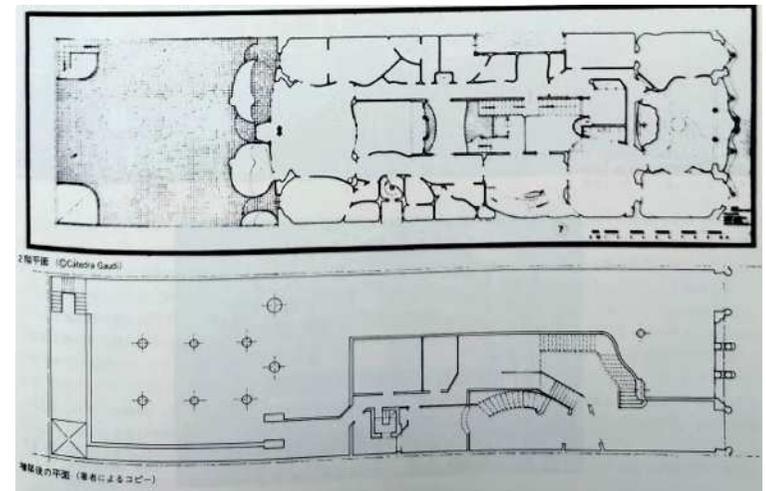
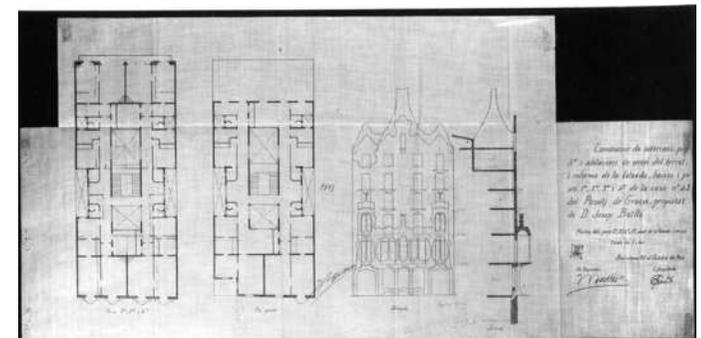
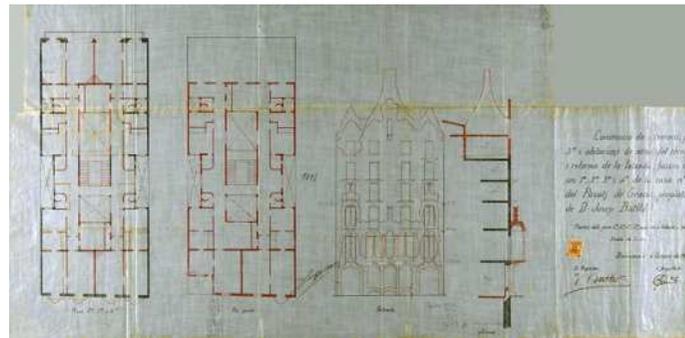
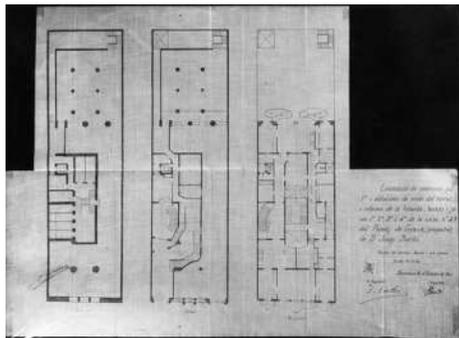
## ■ 平面計画

ガウディによる改修計画



↑ 増築前の平面図

↓ 建築申請の平面図



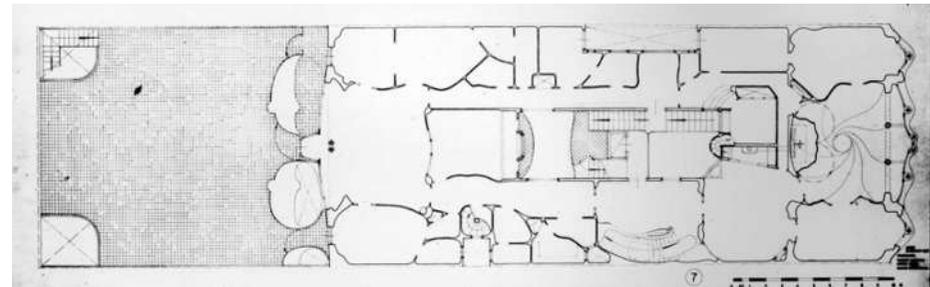
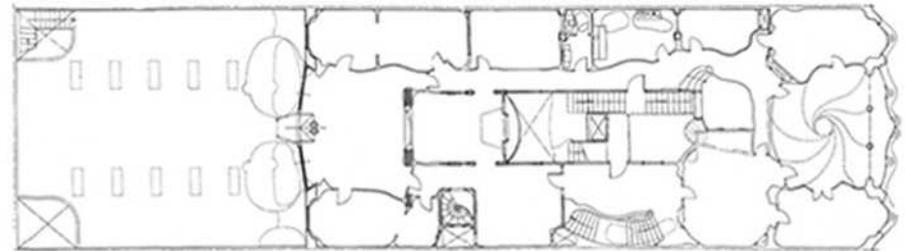
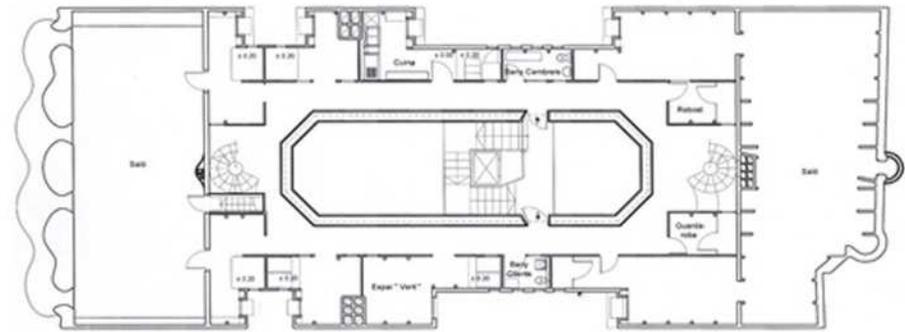
↑ 増築後の平面図 (上：2階、下：1階)

## ■ 平面計画

ガウディは内部の敷地を改修し、パティオを拡張して、家の内部をバルセロナの真珠に変えました。芸術的価値に加えて、ガウディの作品は内部の各要素の機能性と実用性が非常に高く、建築と工学思想の新しいトレンドに弾みをつけました。

彼のインスピレーションの源は自然とその調和でした。内部に入ると、家具、支持構造、換気と照明の人間工学など、ガウディが自然の科学を工学の課題に巧みに取り入れたことがわかります。

居住階の平面計画は、多くの壁は曲線で構成されており、植物の曲線や動物の形態を感じさせ有機的なフォルムを形成させている。



04

ディテール

# 04 デイテール



## ■ファサード

1階、2階、3階のファサードには、典型的なモダニズムの花の要素で装飾された骨ばった形の細長い石柱が組み込まれています。一方で、バルコニーの手すりは仮面の形をしています。铸铁製の一体型で、2箇所のアンカーで固定されているため、一部が出っ張っています。建物の頂上には、動物の背中を模した大きな鱗でできた壮大な屋根があります。その上部は、端から端まで色が異なる大きな球体でできています。

## サン・ジョルディの伝説

龍の背中に似たファサードの屋根と4本の腕の十字架（これは剣の柄を表しています）は、カタルーニャの守護聖人であるサン・ジョルディの伝説にまつわる一般的な解釈のきっかけとなりました。伝説によると、サン・ジョルディは、王女と人々を動物の怒りから救うために、剣でドラゴンを殺しました。この解釈では、屋根のデザインはドラゴンに突き刺さった剣を象徴し、骨の形をした柱はドラゴンの犠牲者を思い起こさせます。実際、カサ・バトリヨは歴史を通じて、骨の家、あるいはドラゴンの家として知られてきました。



■ ファサード

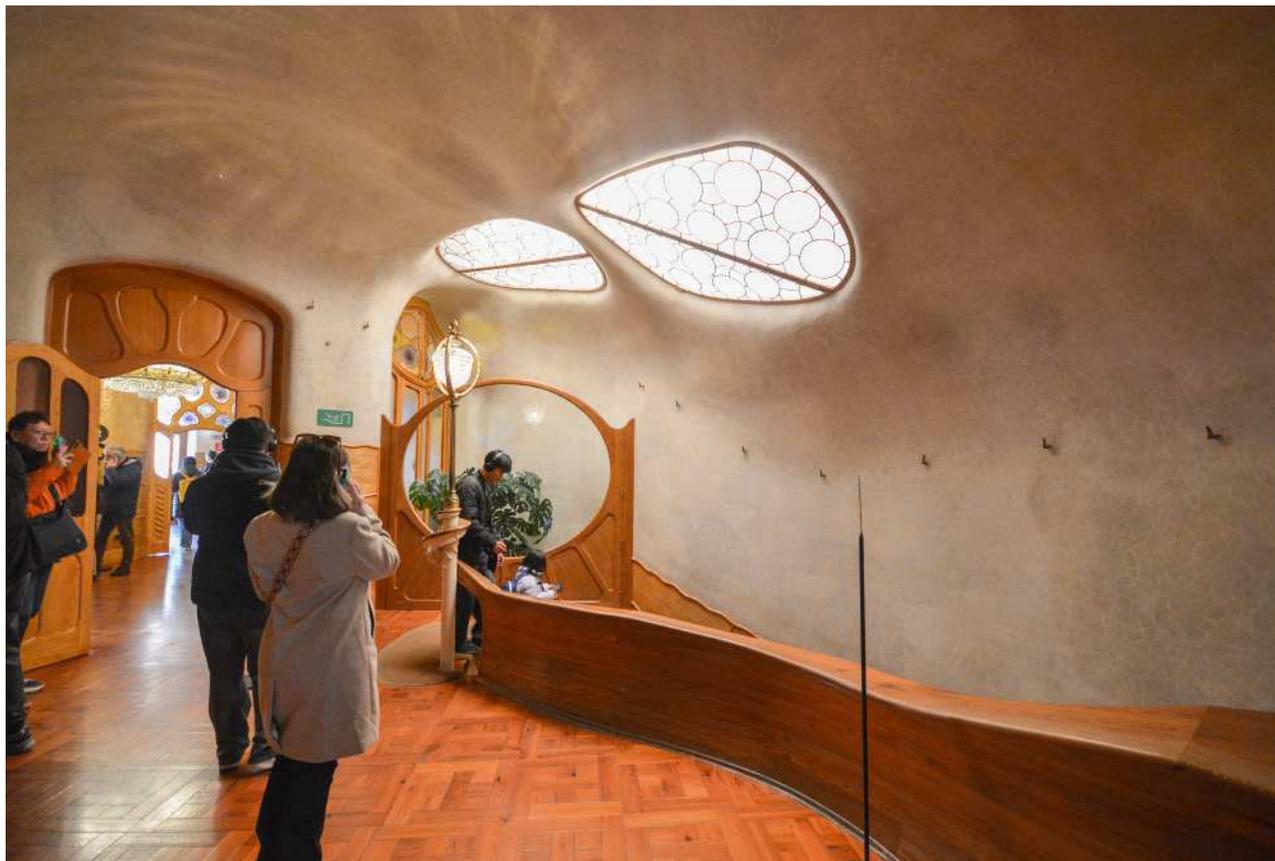


## ■階段室 手摺

2階に続く幅の広い木製の階段です。家全体と同様に、階段にも直線はなく、古代の動物の背骨のように見えます。人間工学に基づいて、手すりは人間の手の形に作られています。階段はオーク材で作られています。



■ 階段室



## ■ 暖炉とベンチ

壁の切り欠きはキノコの形をしており、一見、洗練された建築ソリューションのように見えます。実は、ここはジョゼップ・パトリヨが働いていたキャビネットでした。

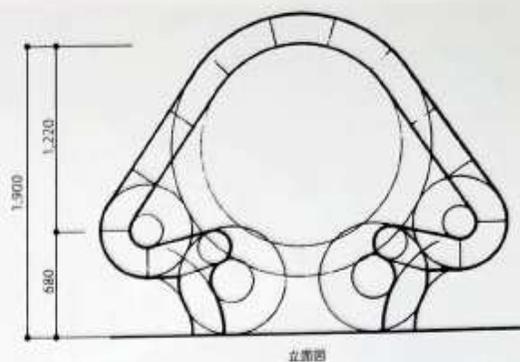


## ■ 暖炉とベンチ

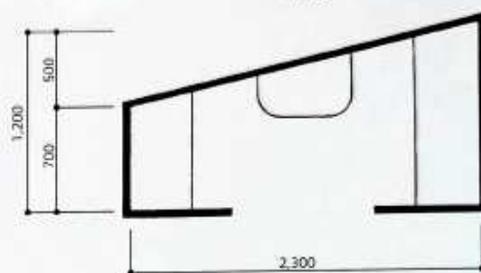


### ●アルコーブ式暖炉と 裏庭のツル柵

3人用のベンチがついた耐熱性セラミック仕上げの暖炉と12個の植木鉢が添えられた鍛鉄製ツル柵も、カテナリー曲線を利用している。

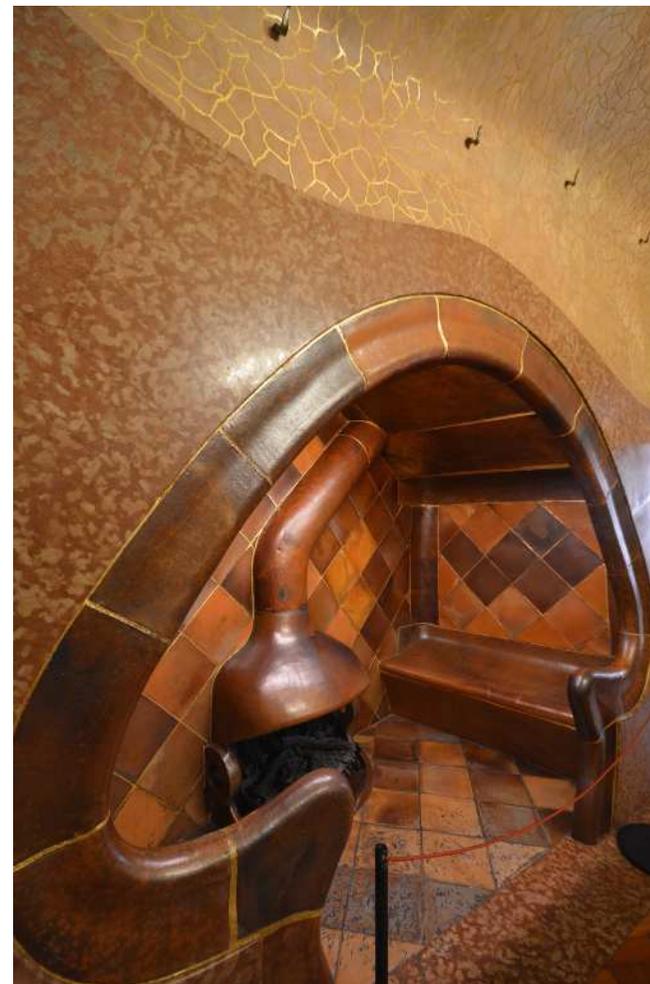


立面図



平面図

サロン前室のアルコーブ式暖炉実測図



## ■ 木工造作建具

全て手作業による特注の建具。

建具自体もアール型になっていて、壁面の形状と連動している。

有機的な丸みのある形状の小窓も周囲の壁面デザインになじむように計画されている。

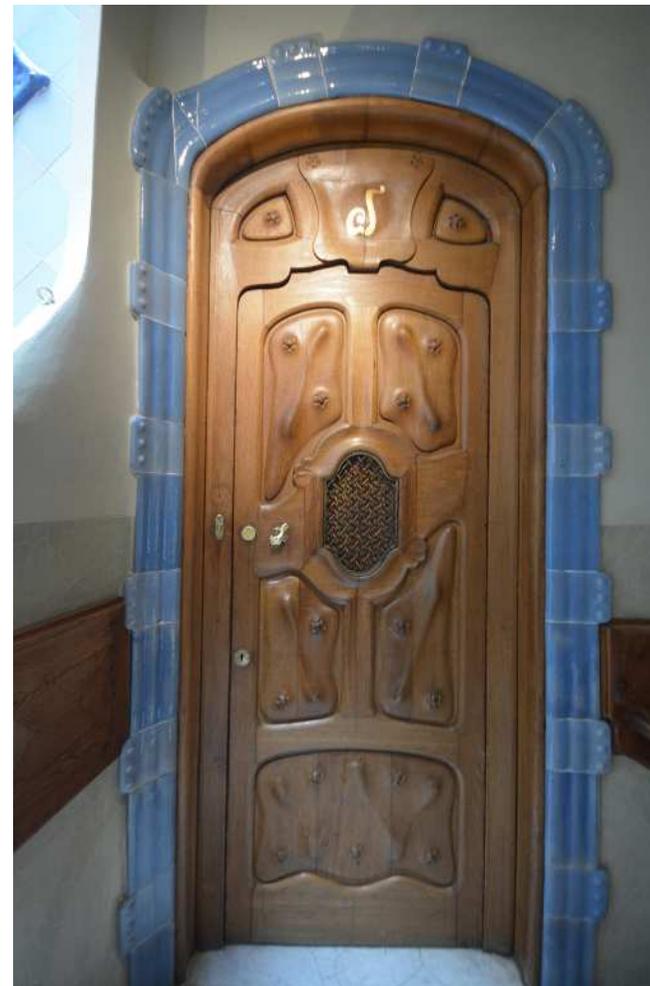


■ 木工造作建具



## ■ 扉と金具

各居室の扉。特注で立体感のある木建具で、当時の職人のレベルの高さを感じる。  
扉のデザインに合わせて金具も全て特注で作られている。



## ■ 扉 仕様

扉の多くは桤材が使われている。

扉

材料：桤材

製作者：カザス・イ・バルデス工房



モールディング・欄間板付扉枠

材料：桤材

製作者：カザス・イ・バルデス工房



2枚扉

材料：桤材

製作者：カザス・イ・バルデス工房



欄間板

材料：桤材

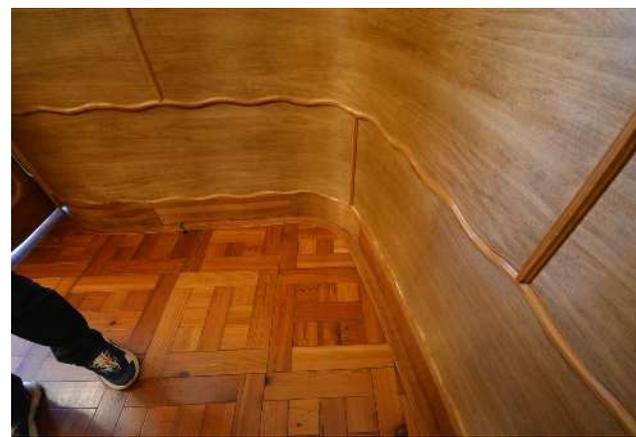
製作者：カザス・イ・バルデス工房



## ■ 曲線の壁

白で仕上がっている壁は、漆喰仕上げ。  
光を膨張、反射させ、室内の明るさを出来るだけ確保する意図を感じる。

木板部分は曲げ加工を施した木仕上げ。  
恐らく継ぎ目は木フレームで隠し、綺麗な納まりとなっている。  
壁のアーチと曲げ木板のアーチ角度がほとんど同じに見え、曲げ板加工の技術の高さを感じる。



■ 渦を巻く天井



## ■ ガラス

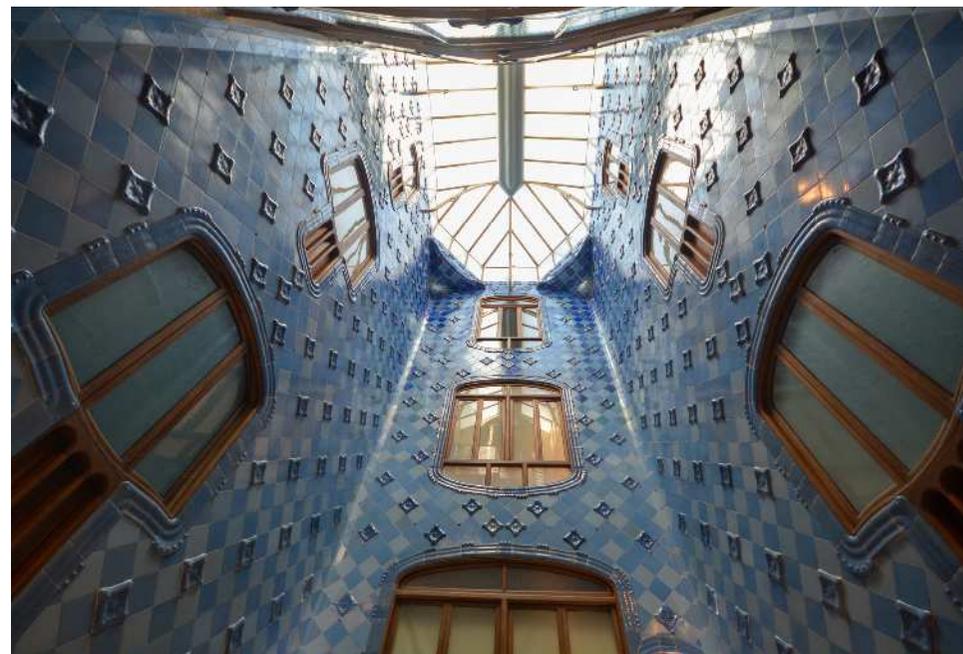
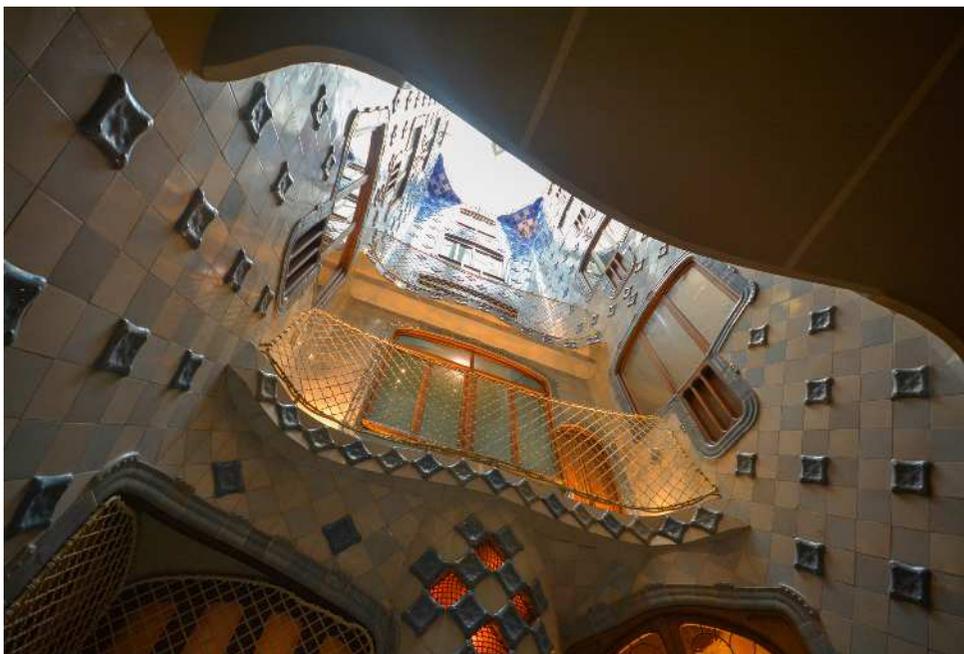
階段（エレベーター）ホールの吹き抜け側のガラス。  
波打ったように見えるガラスで、海を連想させるデザインとなっている。  
水を連想させる。



## ■ グラデーションタイル

吹き抜け部の青いタイル。

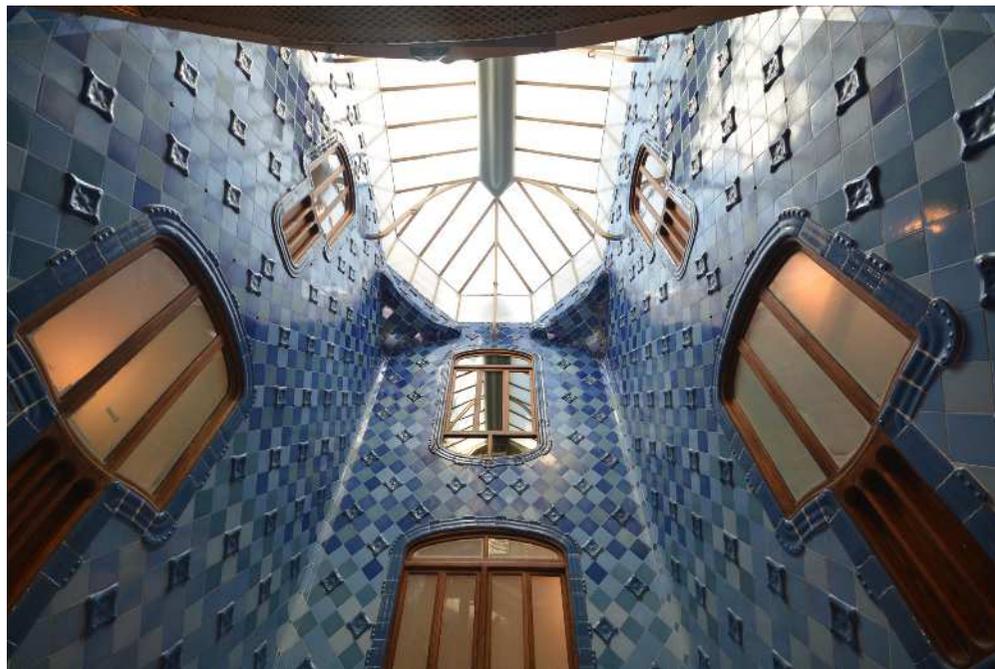
上階が濃い青タイルで、下階にいくほど淡いタイルになる。



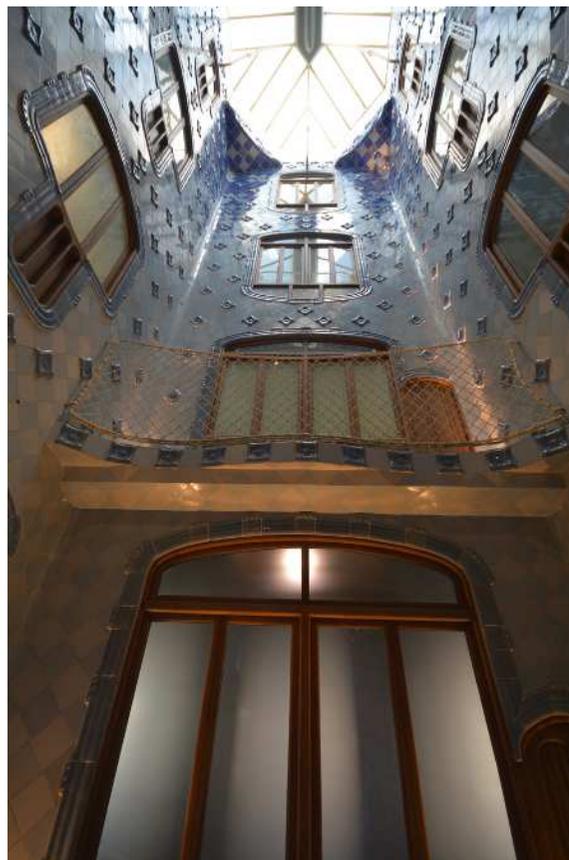
## ■ グラデーションタイル

吹き抜け部の青いタイル。

上階が濃い青タイルで、下階にいくほど淡いタイルになる。



■ グラデーションタイル



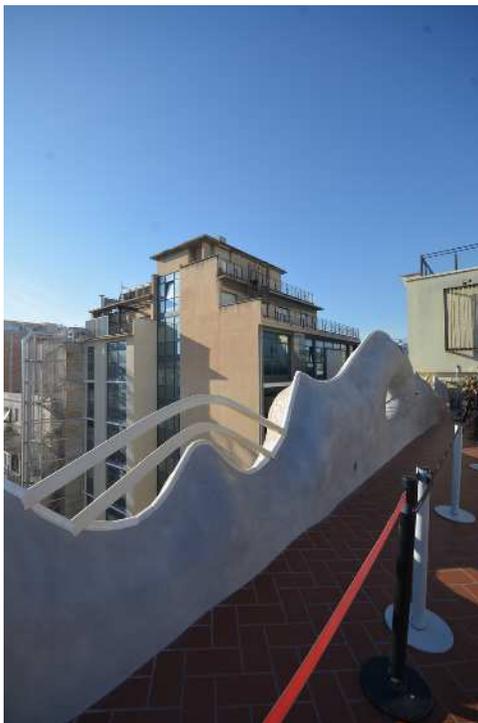
## ■屋上 タイル装飾と立体十字架

タイル装飾。

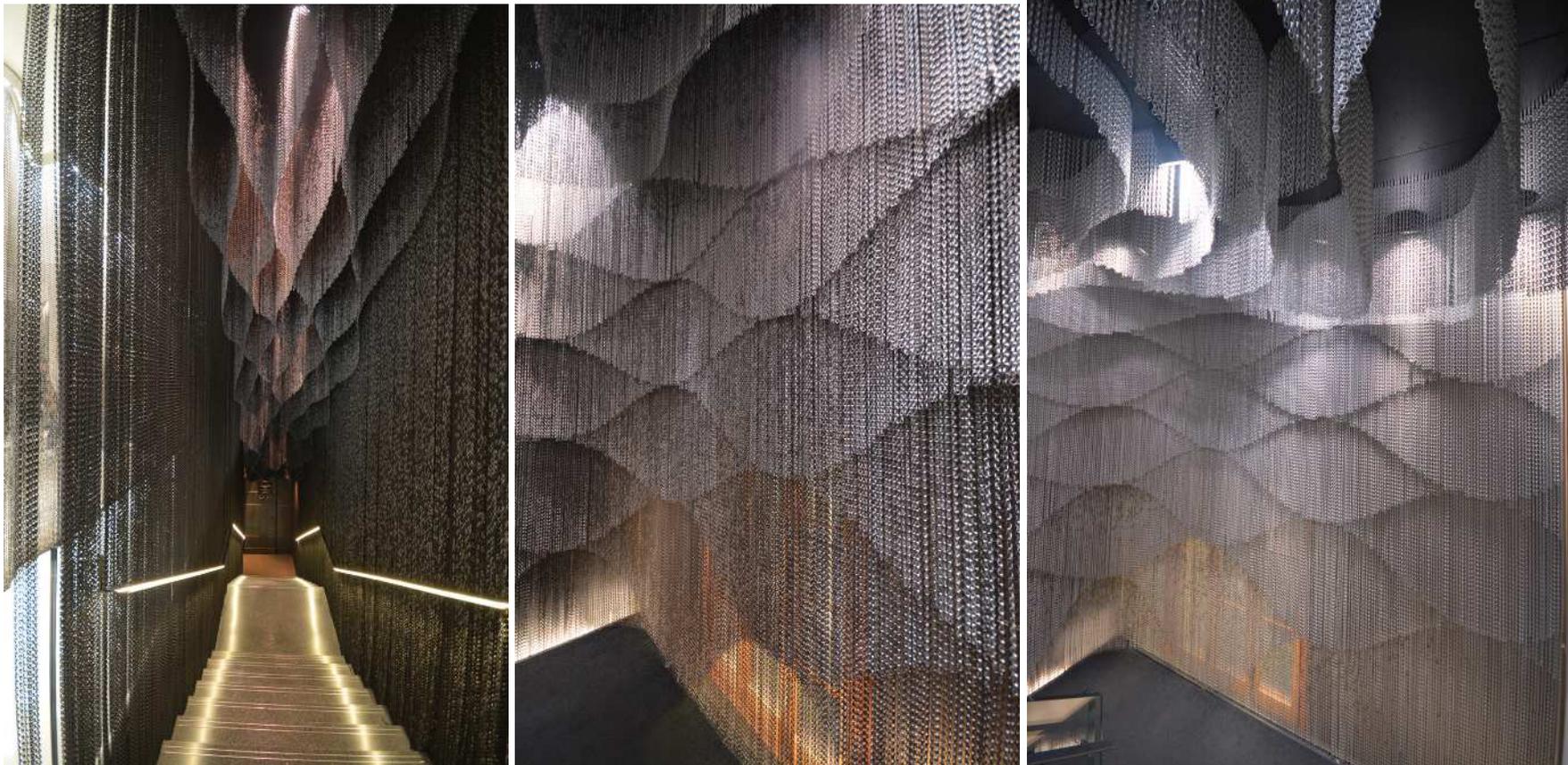
立体的な十字架とトカゲの背中のような屋根。



■ 屋上 タイル装飾と立体十字架



■隈研吾デザインの階段室 メッシュウォール

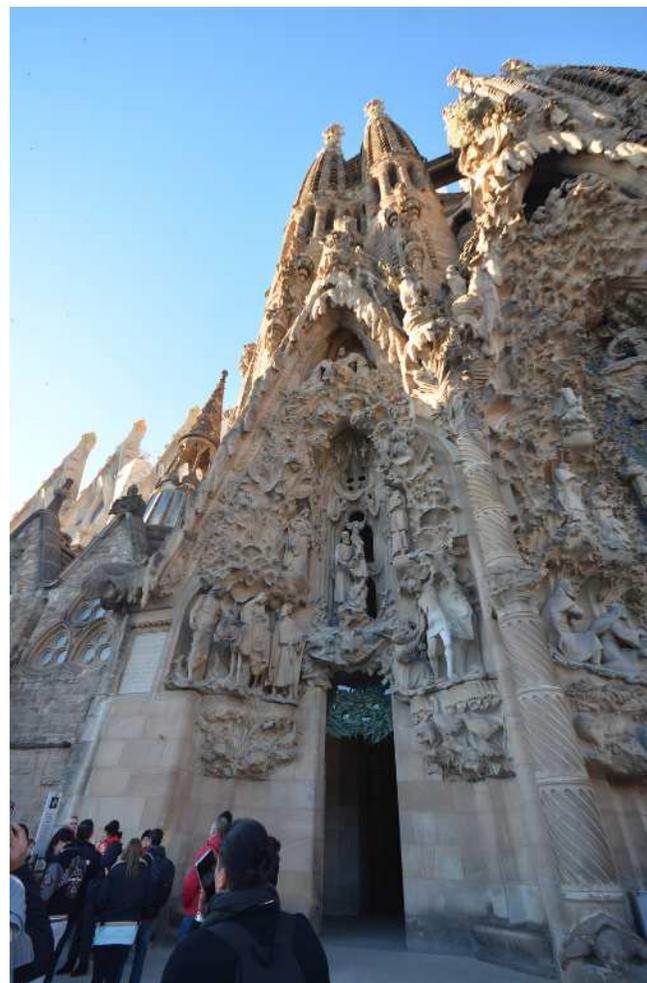
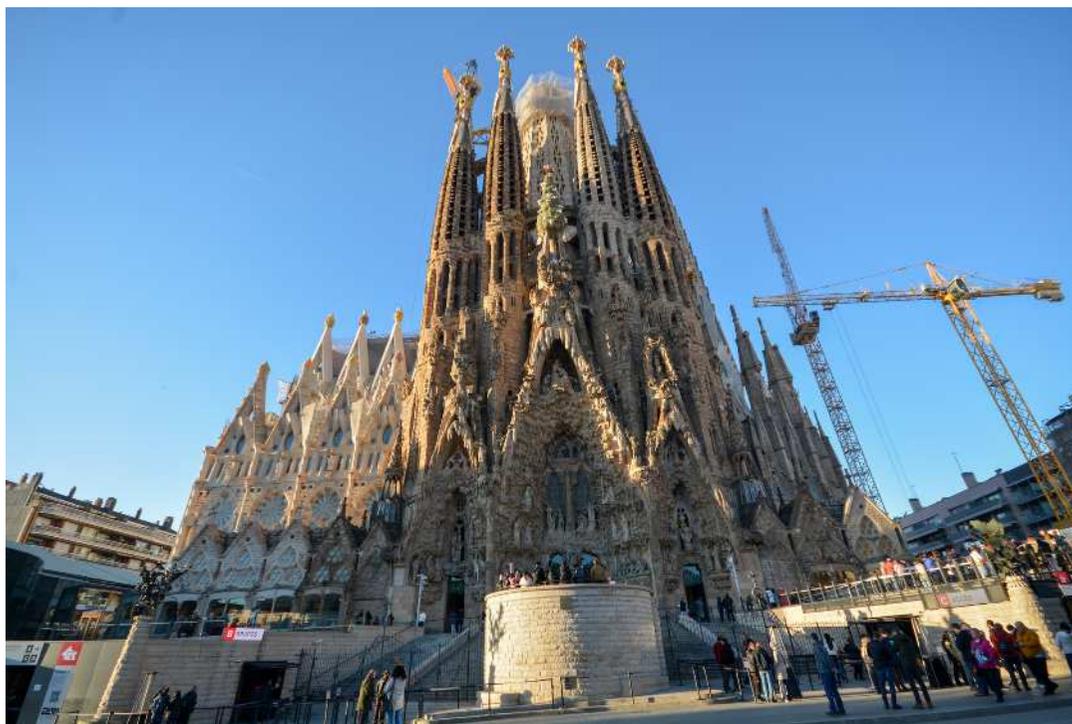


05

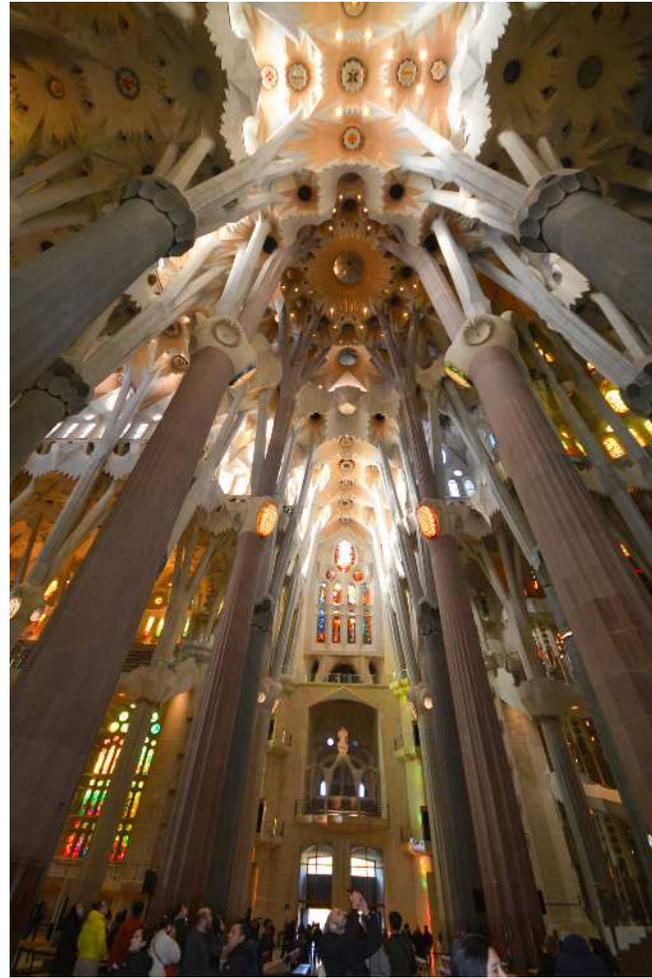
ガウディの建築作品

# 06 ガウディの建築作品

サグラダ・ファミリア



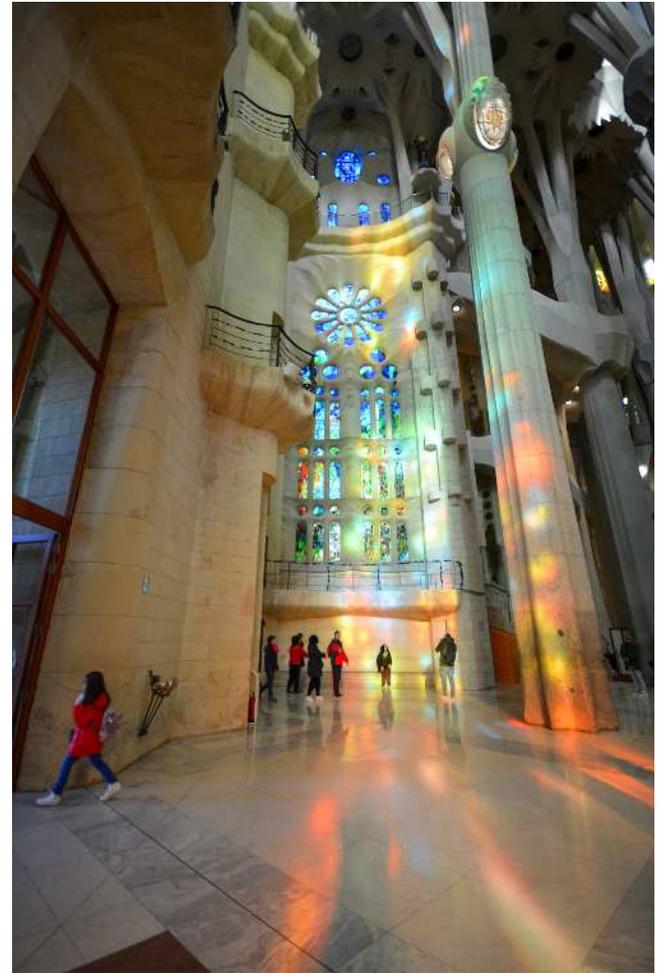
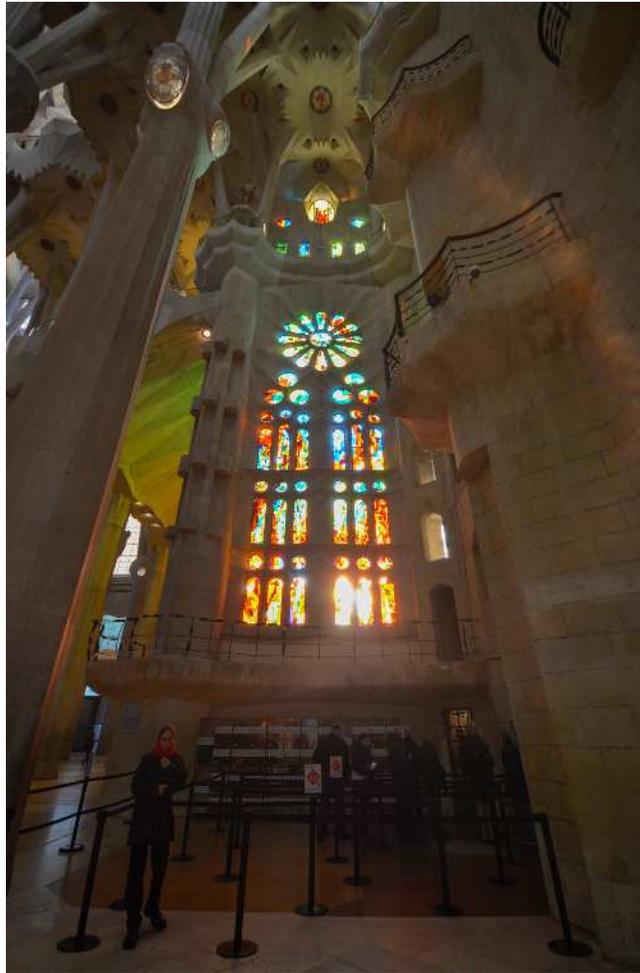
サグラダ・ファミリア



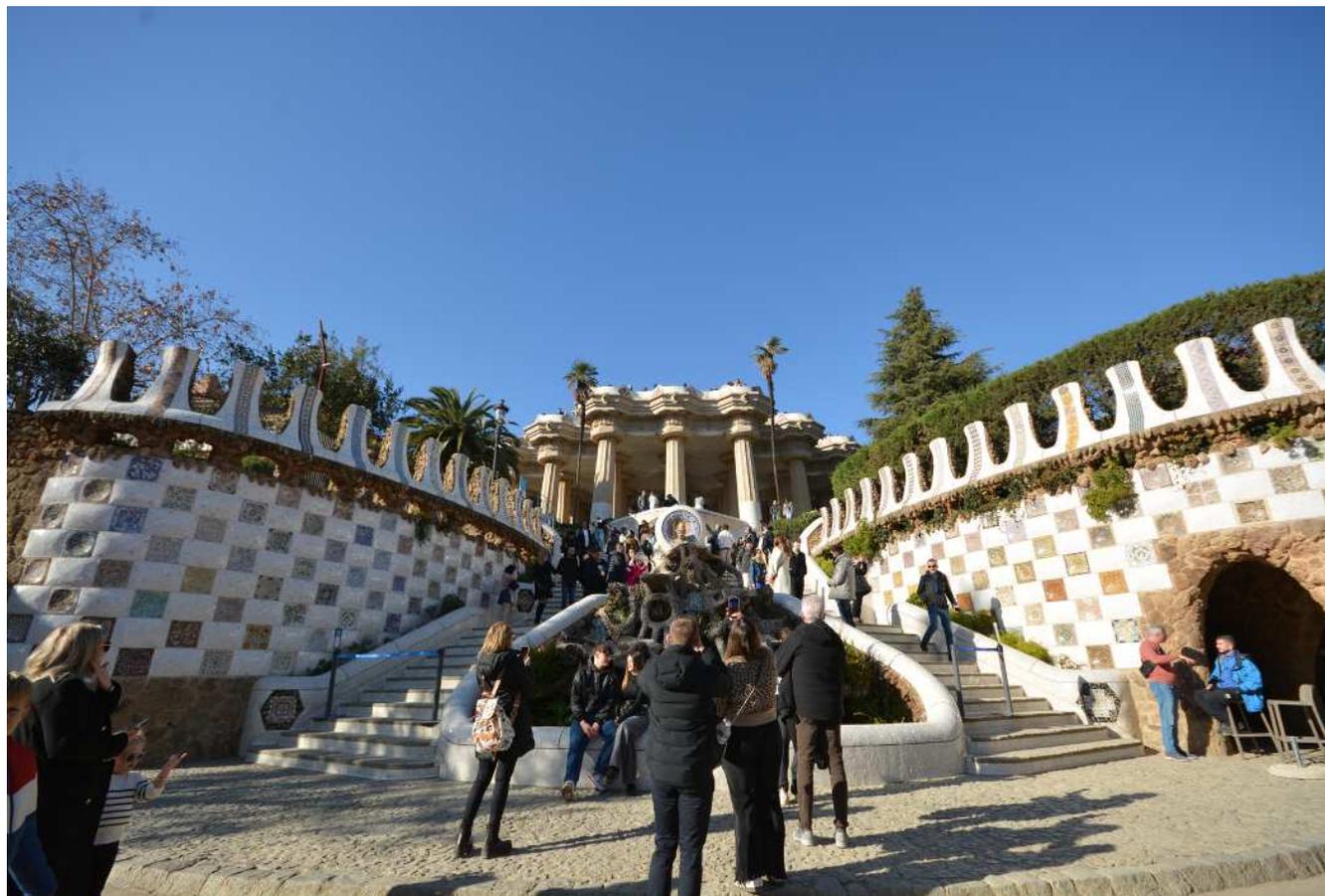
サグラダ・ファミリア



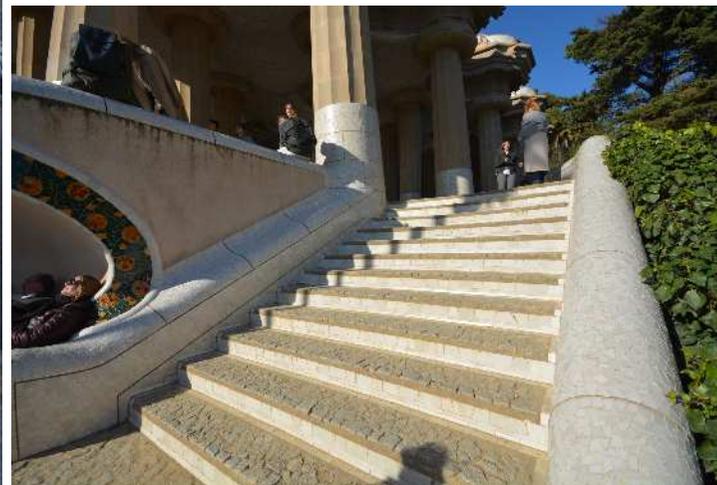
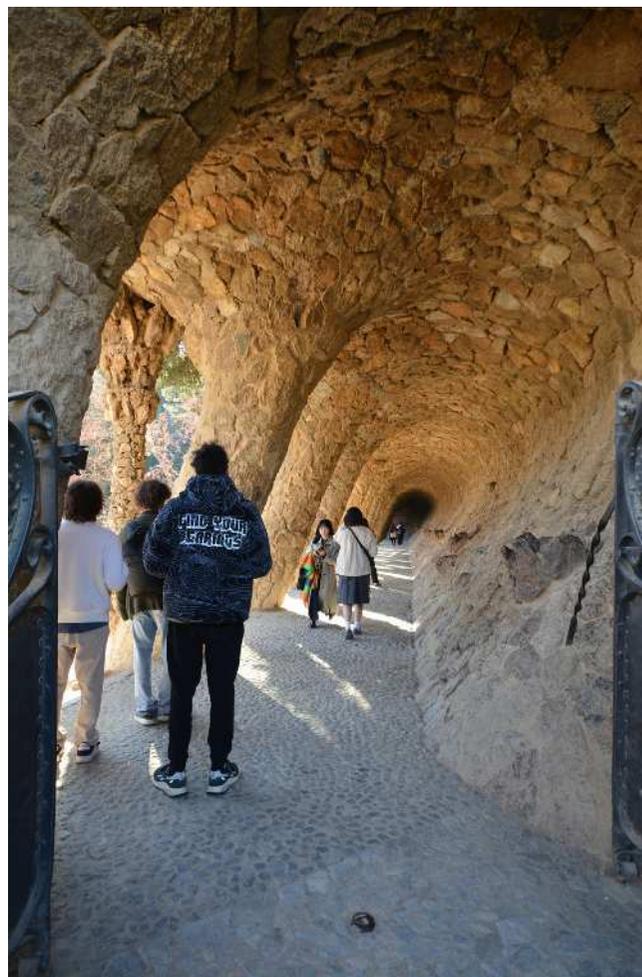
サグラダ・ファミリア



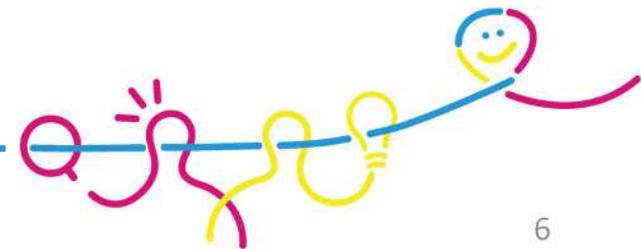
グエル公園



グエル公園



## STEP3 要件整理



## 情報収集→抽出

### 1) バトリヨとは？

- ・実業家 ジョセップ・バトリヨ・イ・カサノバ  
1884年にアメリカ・ゴド・ベラウンサランと結婚（地元の有力紙ラ・バングアルディアの設立者の一人で自由党の政治家でもあったバルトロメオ・ゴド・イ・ピエの娘）
- ・1901年繊維工場へ32万5千ペセタを投資
- ・この資金をもとに”エル・パジェス”という産業コロニーをプレ・ピレネーの村サン・ジョアン・デ・レス・アバデサスにつくった
- ・1903年に当時開発の勢いのついたパセイジ・デ・グラシアに不動産を51万ペセタで買い取った
- ・1913年にはバルセロナのサンツに蒸気機関を使った製糸工場を作り成功
- ・ジョセップ・バトリヨはバトリヨ家のなかでも特にリベラルであり、新しいもの好きであった？
- ・バトリヨ家の他のメンバーが、グラン・ビアとランブラ・カタルーニャの角地に、時代の売れっ子であったジョセップ・ピラセカに依頼して建てさせた建物がある  
この建物は時代の息吹であるモデルニスモ・スタイルではあるものの、カサ・バトリヨから見れば明らかに保守的に見える

### 2) 時代、地域性

- ・カタルーニャ・・・スペイン 北東部の地方。ヘロナ、バルセロナ、レリダ、タラゴナ の4県からなる。中心都市はバルセロナ
- ・カタルーニャのモダニズム・・・1888年はカタルーニャにおけるモダニズムの始まりと考えられている。最初の万国博覧会がバルセロナで開催された  
このスタイルの原動力はカタルーニャのブルジョワ階級：裕福な実業家や実業家（繊維産業出身の場合が多い）で、ヨーロッパのトレンドに従い、贅沢に装飾された、しばしば豪華な建物を通じて自分の富と地位を他人に示したいと考えた  
モダニズムの発祥はバルセロナ、それはスペインの他の地域（バレンシアやカンタブリアなど）に非常に急速に広がった
- ・モダニズム様式・・・20世紀初頭から中頃にかけて広がった文化的、芸術的、建築的な運動。  
この運動は、伝統的な価値観やスタイルからの脱却を目指し、新しい表現方法や技術を追求した芸術的かつ建築的なスタイル  
アールヌーボーにその基礎があり、それにルネッサンス、ゴシック、バロック、あるいはおそらく東洋やムーアの建築など、他の多くの様式の影響が加えられている  
これらはすべてが矛盾しているように聞こえるかもしれないが、カタルーニャの建築家とアーティストは、すべてを独創的で興味深い、斬新で、そして何よりも機能的な形に独創的に組み合わせることに成功した

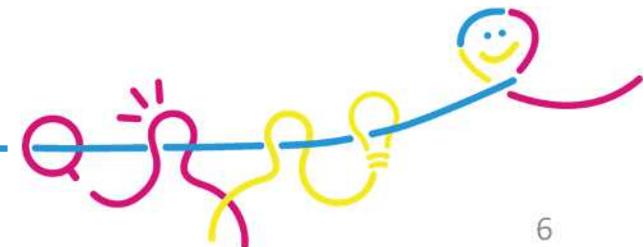
### 3) 改築の目的、要件

- ・1875年にエミリ・サラ・コルテス(1841～1920年)によって建てられたものを解体して新しい建物を作るという計画
- ・メインフロアにバトリヨ家は住み、そのほかの部分賃貸するという、当時よくあったタイポロジーの住宅を計画
- ・ファサード（正面）の改装と中庭の改修を依頼
- ・自分の建物を気に入っていなかった

1900年プーチ・イ・カダファルクというモダニズム建築家設計の「アマトリエール邸」が隣に完成。

### 4) バトリヨとガウディの繋がり

- ・設計を同業者のグエルを通じてガウディに依頼



## なぜガウディに依頼？

伝統的な建築スタイルから脱却し、モダニズムやアールヌーボーの要素を取り入れた新しいデザインを求めているバトリヨはこの時代、この地域でカタルーニャのモダニズムの中でも特に独創性を発揮していたガウディに依頼した

グエル公園のプロジェクトでも強く感じられるように、ガウディには自分の軸（独創性）があった

ガウディの言葉「独創性とは起源に戻ることである」は、創造的なプロセスが過去や自然からインスピレーションを得ることを示唆している

この考え方は、彼の作品にも反映されており、自然界の形状や構造を模倣したデザインが特徴

ガウディの軸（独創性）のポイント

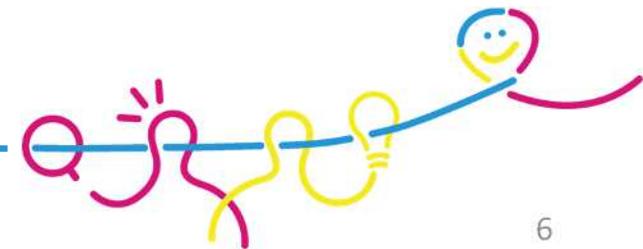
自然の模倣: 彼の建築は、自然の形やパターンを取り入れている

歴史的要素: 古代文化や伝統的なスタイルからの影響が見られる

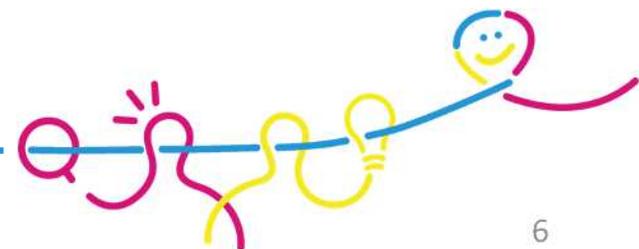
個性の表現: 独自のスタイルを持ちながらも、普遍的なテーマを探求している

さらに、独創性とは新しいものを創り出すだけでなく、過去の知恵や自然の美しさを再発見することとも捉えていた。

カサ・バトリヨはバトリヨ家の象徴、社会的地位や財力を示す重要な建物であるが故にバトリヨがファサード、中庭のみを重要視したが、ガウディはより広い視点で考え建物全体をデザイン・設計し、バトリヨの期待を超える仕事を成し遂げた



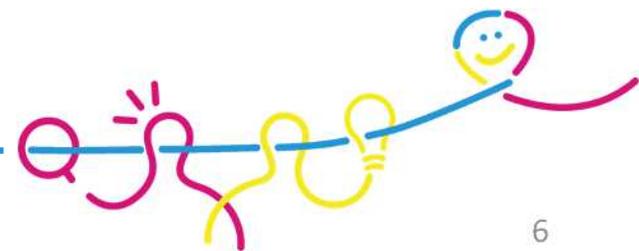
STEP4 コンセプトメイク  
(結果 (建築、店舗) からコンセプトを想像する→コンセプトを言語化する)



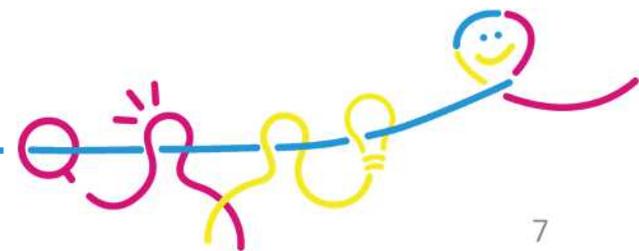
## 「伝統と自然の融合で新しい暮らしを発見する」

過去の知恵（機能的）と自然の美しさ（情緒的）の新たな組み合わせが新しい発見を生み出す

- 1.自然界の有機的な形やパターンを取り入れ、流れるようなラインや曲線を強調する
- 2.木材や石材などの地域の自然素材を活用し、自然との一体感を持たせる
- 3.カタルーニャの歴史や文化を反映させたデザイン要素を取り入れ、アールヌーボーの装飾技術を用い、建物に独自の個性を持たせる
- 4.各部屋や空間に異なるテーマやスタイルを持たせ、居住者の個性を反映させる
- 5.住民同士が交流できる場所を設け、コミュニティの形成を促進する
- 6.地域社会との関係性を重視し、地元のアーティストや職人とのコラボレーションを行う



## STEP5 デザイン提案



## デザインアウトプットのものさし

“自然の美しさ（情緒的）”の表現をバトリヨ氏が繊維産業の成功者である事を踏まえて

“海”から”綿やウール”に変更

### 19世紀前半のスペインの繊維産業

#### 背景

経済状況: スペインは19世紀初頭にナポレオン戦争の影響を受け、経済は不安定  
しかし、戦争後の復興期に繊維産業が重要な役割を果たした

#### 主な特徴

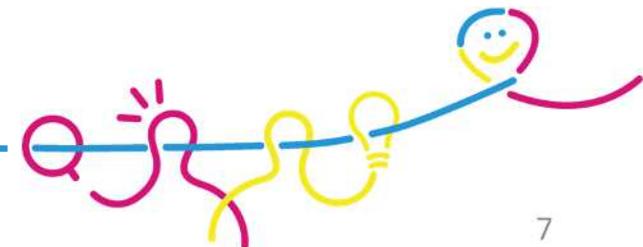
技術革新: イギリスからの技術革新の影響を受け、繊維機械の導入が進んだ  
特に、紡績機や織機の普及が見られた

地域的集中: カタルーニャ地方（バルセロナ周辺）が繊維産業の中心地となり、工場が多く設立された

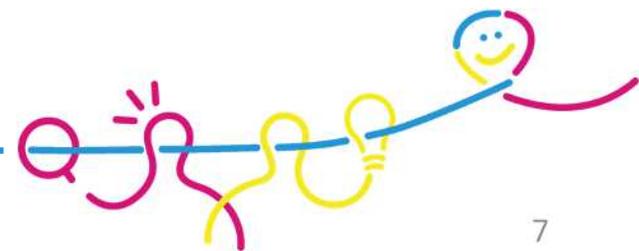
製品: 主に綿やウールの製品が生産され、国内市場だけでなく、輸出も行われた

#### 社会的影響

労働者の状況: 工場で働く労働者は過酷な労働



まとめ

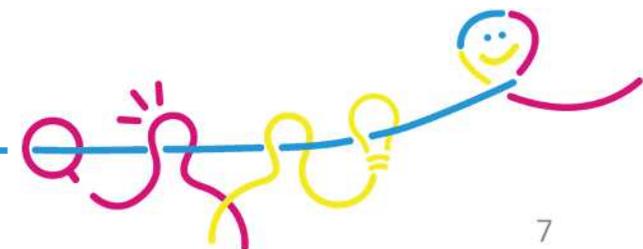


ガウディの建築を目の前にした時、すごい！素晴らしい！ばかりで、当初はこれに対し、”改めてデザイン提案するとしたら？”と考えてもアイデアは全く浮かばなかった

しかし、結果からコンセプトを想像する、要件整理からやり直してみる事で違うアウトプットの選択肢が見えてきた

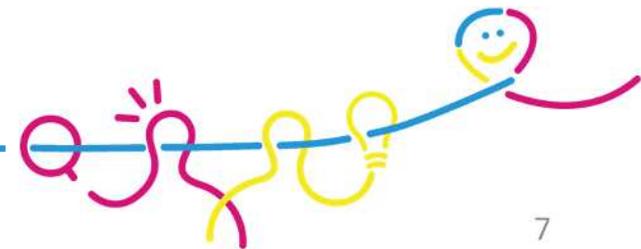
このプロセスが”見て、考える事”の一例であり、我々が持つべき視点であると理解出来た

本研修での学びを今後のプロジェクトに活かしていきたい



フィールドワーク

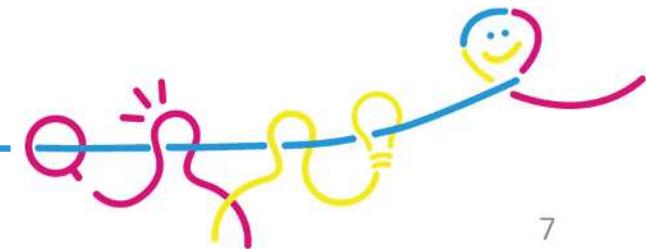
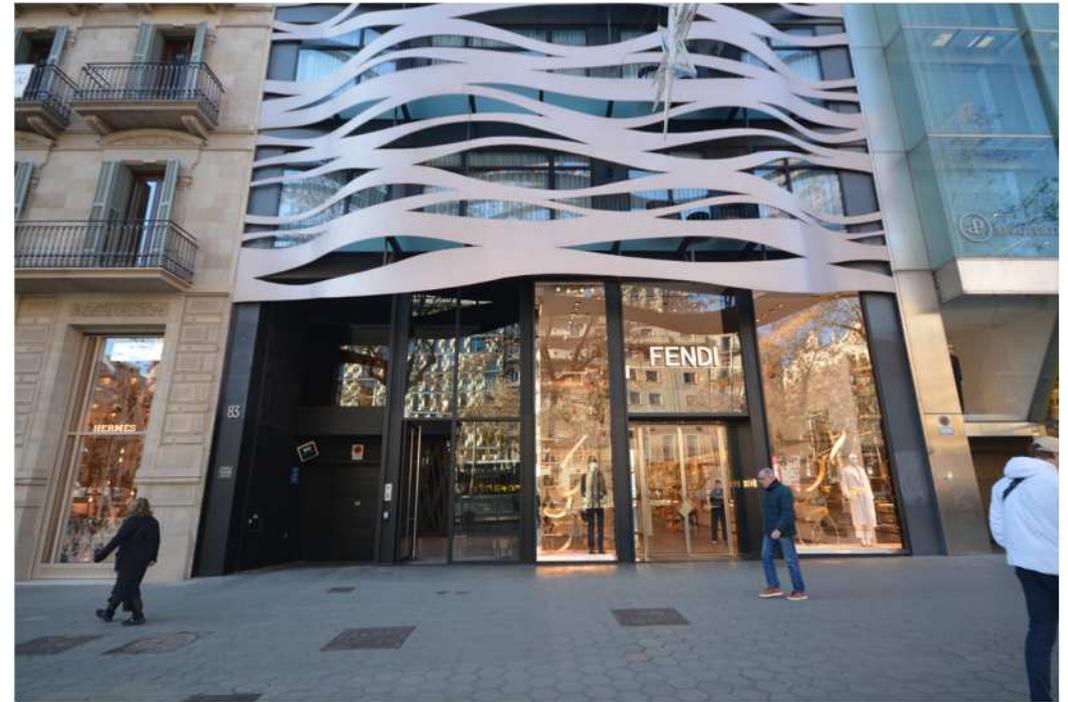
優先順位 3～



# ○フィールドワーク

## 3. 日本人建築家（プリツカー賞受賞者）

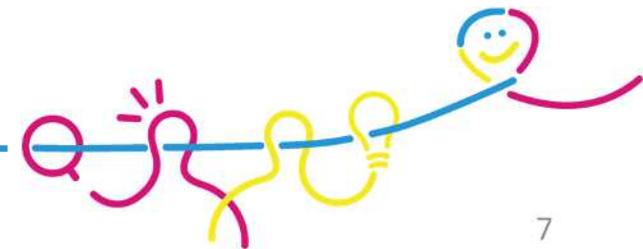
スイーツアベニューアパートメント ファサード（バルセロナ）／伊東豊雄



## ○フィールドワーク

### 3. 日本人建築家（プリツカー賞受賞者）

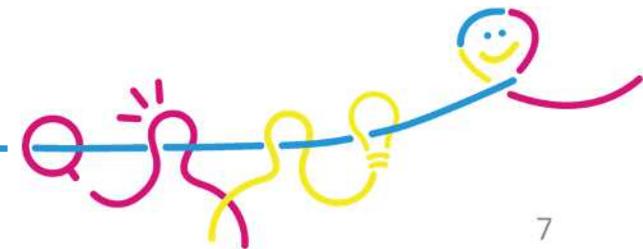
CAMPER パセオ・デ・グラシア店（バルセロナ）／隈研吾



# ○フィールドワーク

## 4. 美術館、歴史的建造物

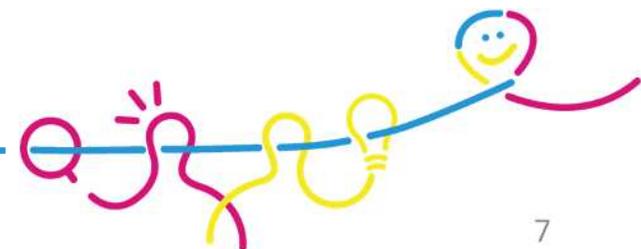
### ミロ美術館（バルセロナ）



# ○フィールドワーク

## 5. デパート、ショップ

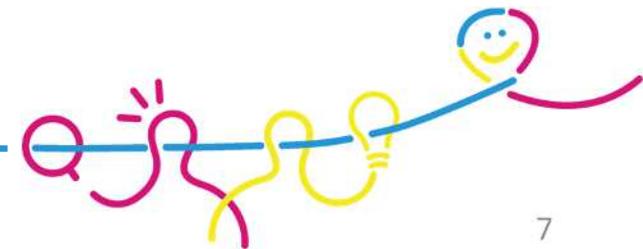
エル・コルテ・インGRES~グラシア通り (バルセロナ)



# ○フィールドワーク

## 5. デパート、ショップ

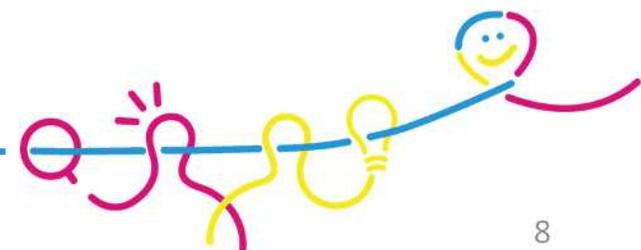
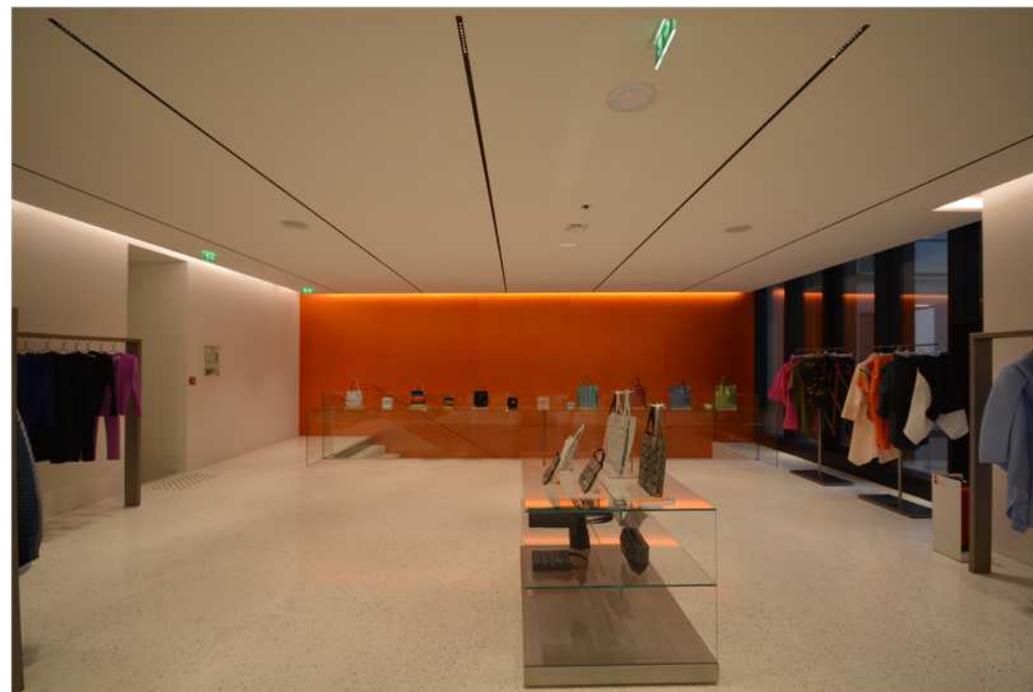
サマリテーヌ リヴォリ館（パリ）／SANAA（妹島和世（せじまかずよ）、西沢立衛（にしざわりゅうえ））



# ○フィールドワーク

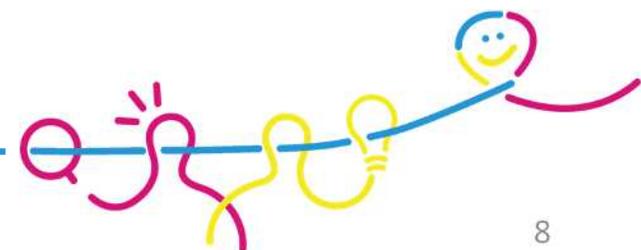
## 5. デパート、ショップ

ISSEY MIYAKE PARIS (パリ) / 吉岡徳仁



## ○フィールドワーク

ミース・ファン・デル・ローエ記念館（バルセロナ）／バルセロナ・パビリオン



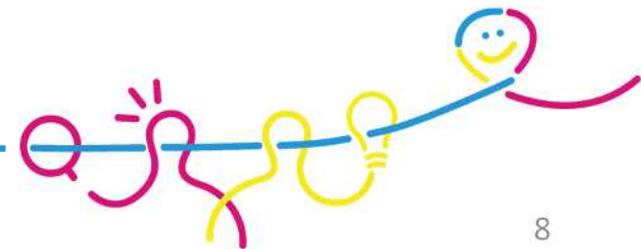
# ○フィールドワーク

トーレ・アグバル (バルセロナ) / ジャン・ヌーベル



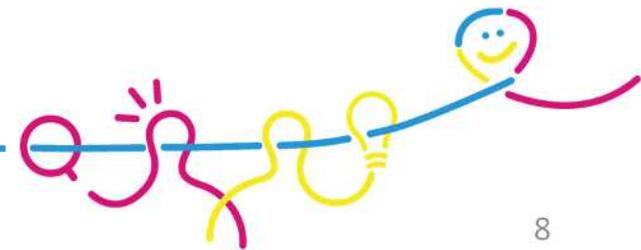
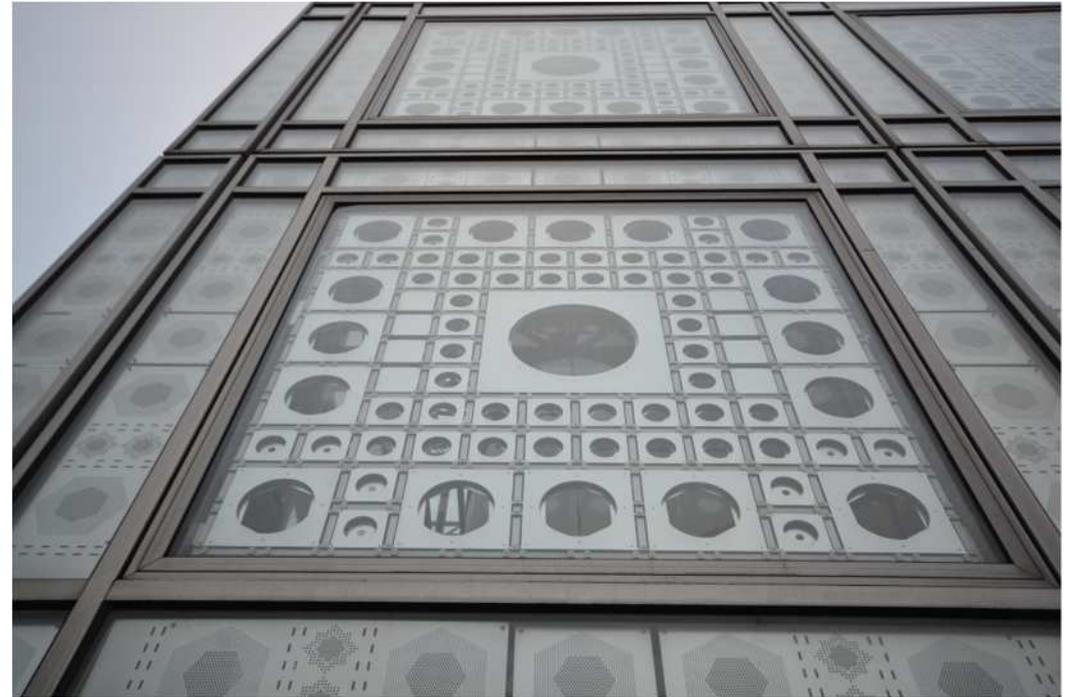
# ○フィールドワーク

ポンピドゥーセンター（パリ）／リチャード・ロジャーズ+レンゾ・ピアノ



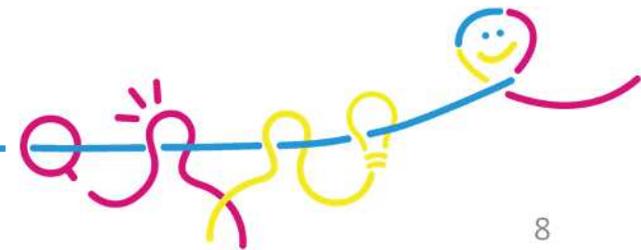
# ○フィールドワーク

アラブ世界研究所（パリ）／ジャン・ヌーベル



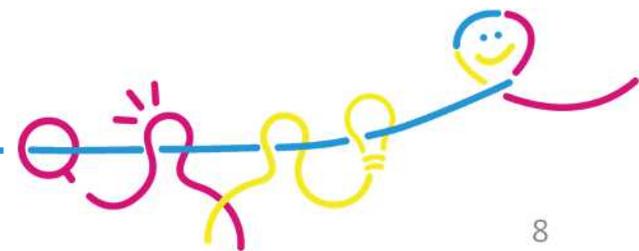
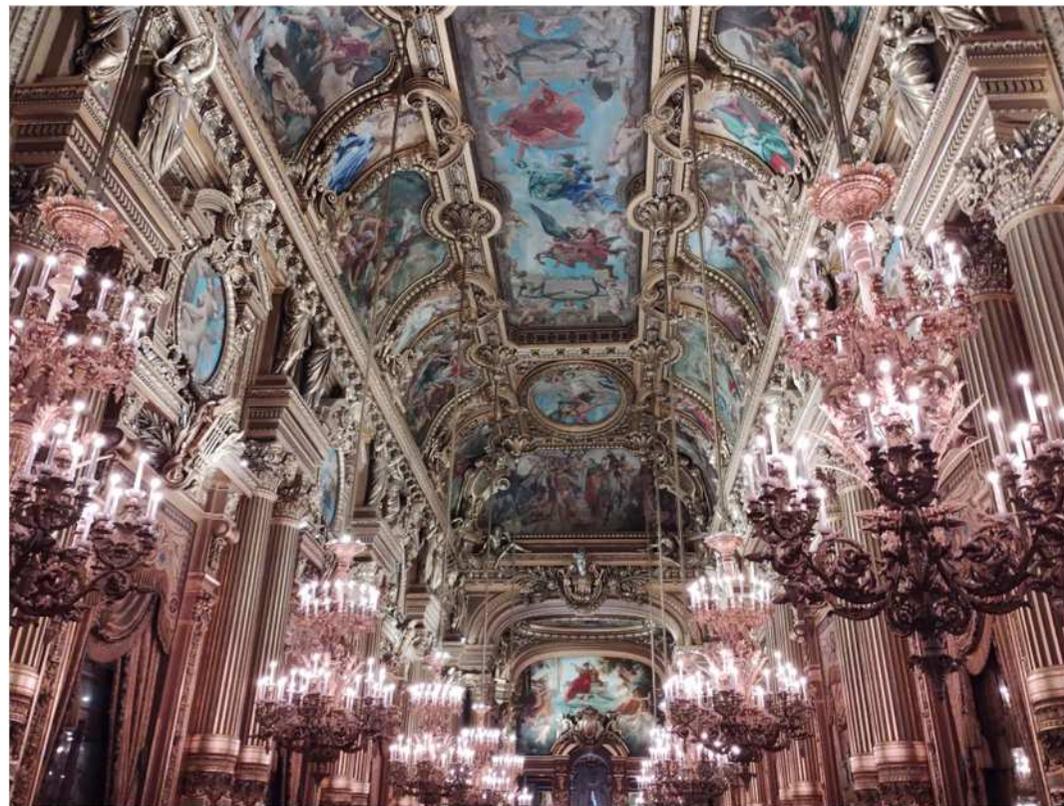
# ○フィールドワーク

## ノートルダム大聖堂（パリ）



# ○フィールドワーク

## オペラガルニエ（パリ）



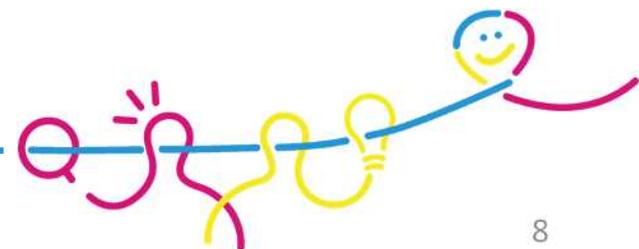
# ○フィールドワーク

## ブケリア市場 (バルセロナ)



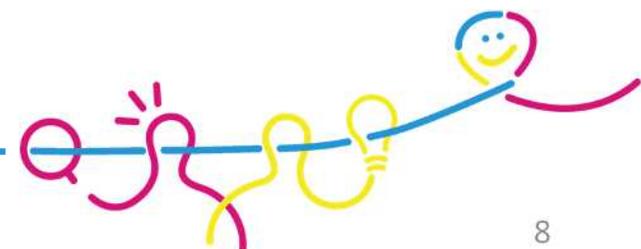
# ○フィールドワーク

## フラメンコショー (バルセロナ)



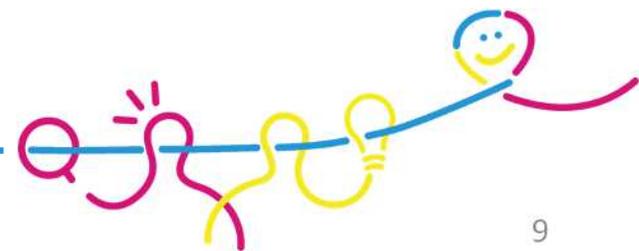
# ○フィールドワーク

## 食事（バルセロナ）



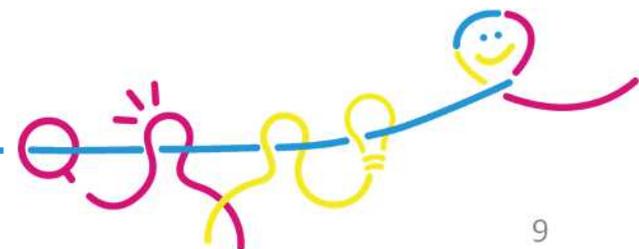
# ○フィールドワーク

## 食事（パリ）



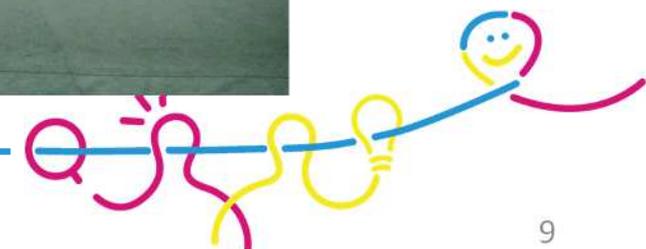
# ○フィールドワーク

食事／FIVE GUYS (パリ)



# ○フィールドワーク

## MAISON & OBJET PARIS 2025



## ○出典

- ①田中 裕也.「ガウディの建築 実測図集」.彰国社.1987年,P34～35
- ②田中 裕也.「つくるガウディ ガウディ建築-実測図ノート」.LIXIL出版.2017年,P28～29
- ③田中 裕也.「実測図で読むガウディの建築」.彰国社.2012年,P117
- ④東映（編集）日経BP社（編集）.「特別展 ガウディ×井上雄彦 シンクロする創造の源泉」.日経BP.2014年,P107、P120～121

